4002630000001

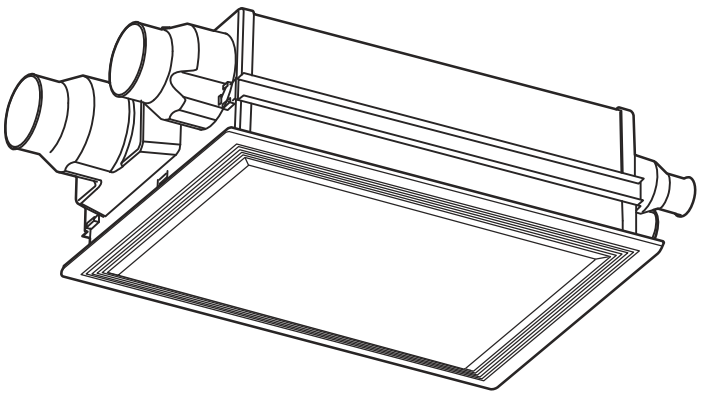
MAX®

販売店・工事店さま用

施工説明書

全熱交換型
全館24時間換気扇

品 番
ES-8100DC



1. 安全のために必ずお守りください……1
2-1. 各部の名称と寸法……2
2-2. 各部の名称と寸法 [単位:mm]……3
3. 気をつけていただきたいこと……4
4. 各部材取り付け例……5
5. 本体取付の注意点……6
6. 本体取付準備……7
7-1. 本体取付工事……8
7-2. 本体取付工事……9
8-1. ダクト工事……10
8-2. ダクト工事……11
9-1. 電気配線工事……12
9-2. 電気配線工事……13
9-3. 電気配線工事……14
10-1. ベントキャップ取り付け〈壁取付〉……15
10-2. ベントキャップ取り付け〈壁取付〉……16
10-3. ベントキャップ取り付け〈軒天取付〉……17
11. 天井ボード施工……18
12. 給気グリルの穴あけ工事……19
13. クロス貼り……20
14. 給気グリルの取り付け……21
15. コントローラの取り付け……22
16. フロントパネルの取り付け……23
17. 点検と試運転……24
18-1. 別売り部材・現場調達部材 [単位:mm]……25
18-2. 別売り部材・現場調達部材 [単位:mm]……26

第1期工事

第2期工事

第3期工事

1 安全のために必ずお守りください

■取り付けの前に、この事項を必ずお読みになり、正しく安全に取り付けてください。
■この項に示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。

●表示の意味は次のとおりになっています。

⚠警告	誤った取扱いをすると死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠注意	誤った取扱いをすると人が傷害を負うか、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

●図記号の意味は次のとおりになっています。

	「禁　　止」を表します
	「分解禁止」を表します
	「必ず行うこと」を表します

■取付施工完了後、この項の注意事項が守られているか確認のうえ、試運転を行い異常がないか確認し、取扱説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。この施工説明書は、取扱説明書と共にお客様がいつでも見られる所に必ず保管するようお願いしてください。

⚠警告

使用禁止

指定電圧以外では使用しない。

指定電圧	ＡＣ１００Ｖ

☆火災・感電の原因となります。

分解禁止

改造はしない。また、修理技術者以外の人は、分解したり修理をしない。

☆火災・感電・けがの原因となります。
修理はお買い上げの販売店または弊社までご相談ください。

アース接続

アースをＤ種接地工事に基づいて確実に取り付け、専用の漏電遮断器を設置してください。

☆故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

⚠注意

取付注意

電源電線の接続は確実に行う。

☆接続部が過熱して発火の恐れがあります。

取付注意

配線工事は、電気設備技術基準や内線規定に従って安全・確実に行う。

☆接続不良や誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。

禁　止

本体や部品等を洗浄したり、雨ざらしにしない。

☆火災や故障、感電の原因になります。

取付注意

部品の取り付けは確実に行う。

☆落下により、けがをする恐れがあります。

取付注意

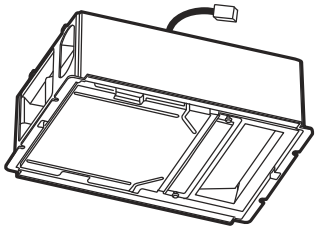
この全熱交換換気ユニット(本体、取付枠、フロントパネル)の重量は約10.3kgあります。
本体取り付け工事は十分強度が得られるよう確実に行う。

☆落下により、けがをする恐れがあります。

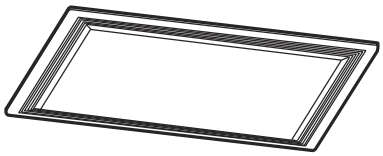
2-1 各部の名称と寸法

梱包内容（換気ユニット１台あたり）

本体 １台　※中継コード(0.25m 接続済み)



フロントパネル １個



付属ねじセット １袋

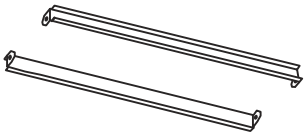
+ハイローねじ黒4×35……14本
（本体、各マニホールド取付用）

+皿タッピンねじ4×35 ……４本
（コントローラ取付用）

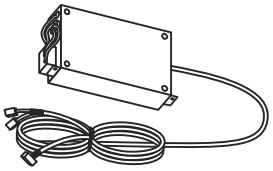
+トラス小ねじM4×14 ……４本
（サイドステー組立用）

+トラスラミライトねじ4×10 ……２本
（電装ボックス取付用）

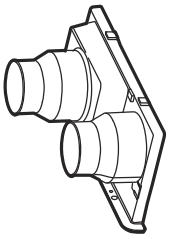
サイドステー ２個



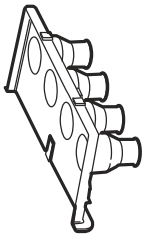
電装ボックス １個
※中継コード(1.4m 接続済み)
※コントローラコード(10m 接続済み)



外気･排気マニホールド １個

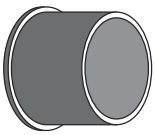


給気マニホールド １個



コントローラ １個

ゴムキャップ １個
※給気マニホールドに接続されています。



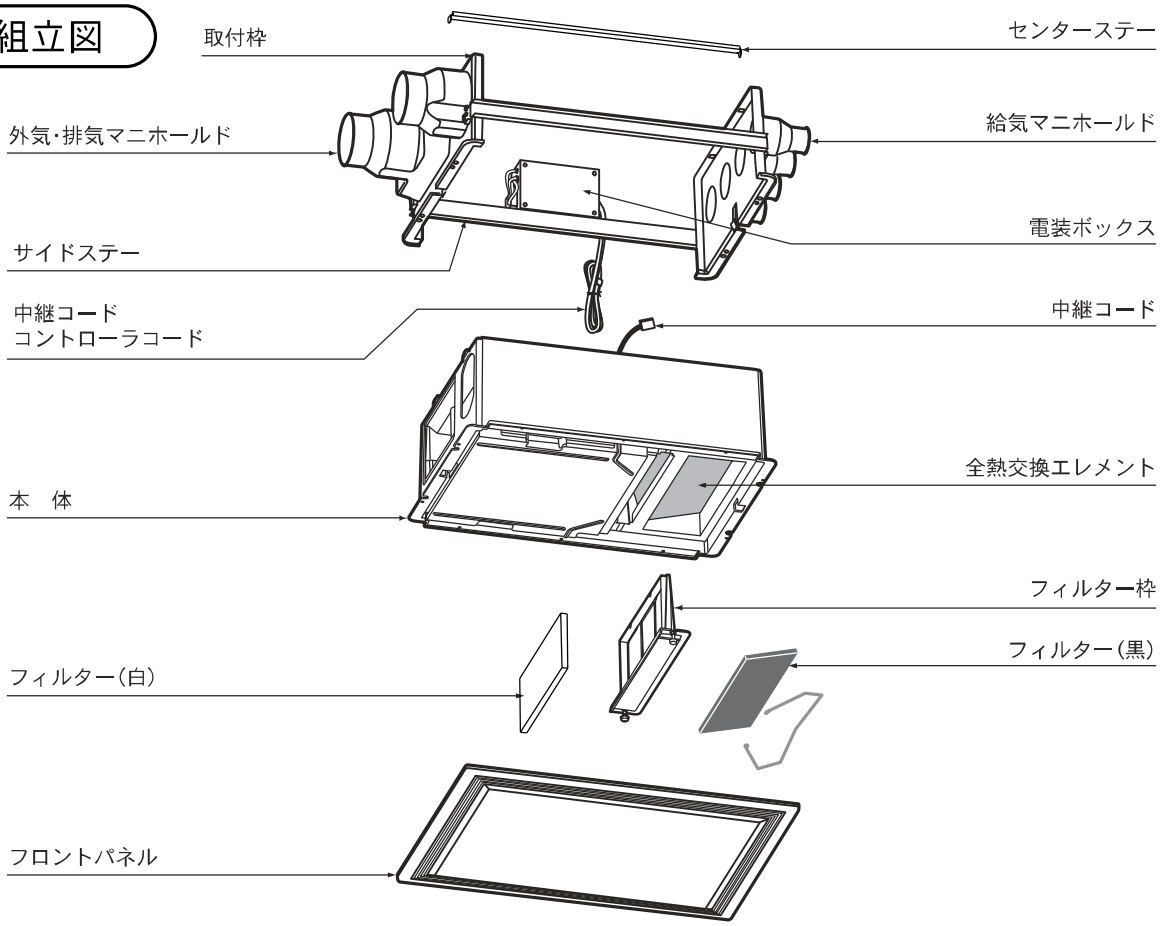
スペアフィルター(白)(黒)　各１枚

取扱説明書 １冊
※必ずお客さまにお渡しください。

センターステー １個

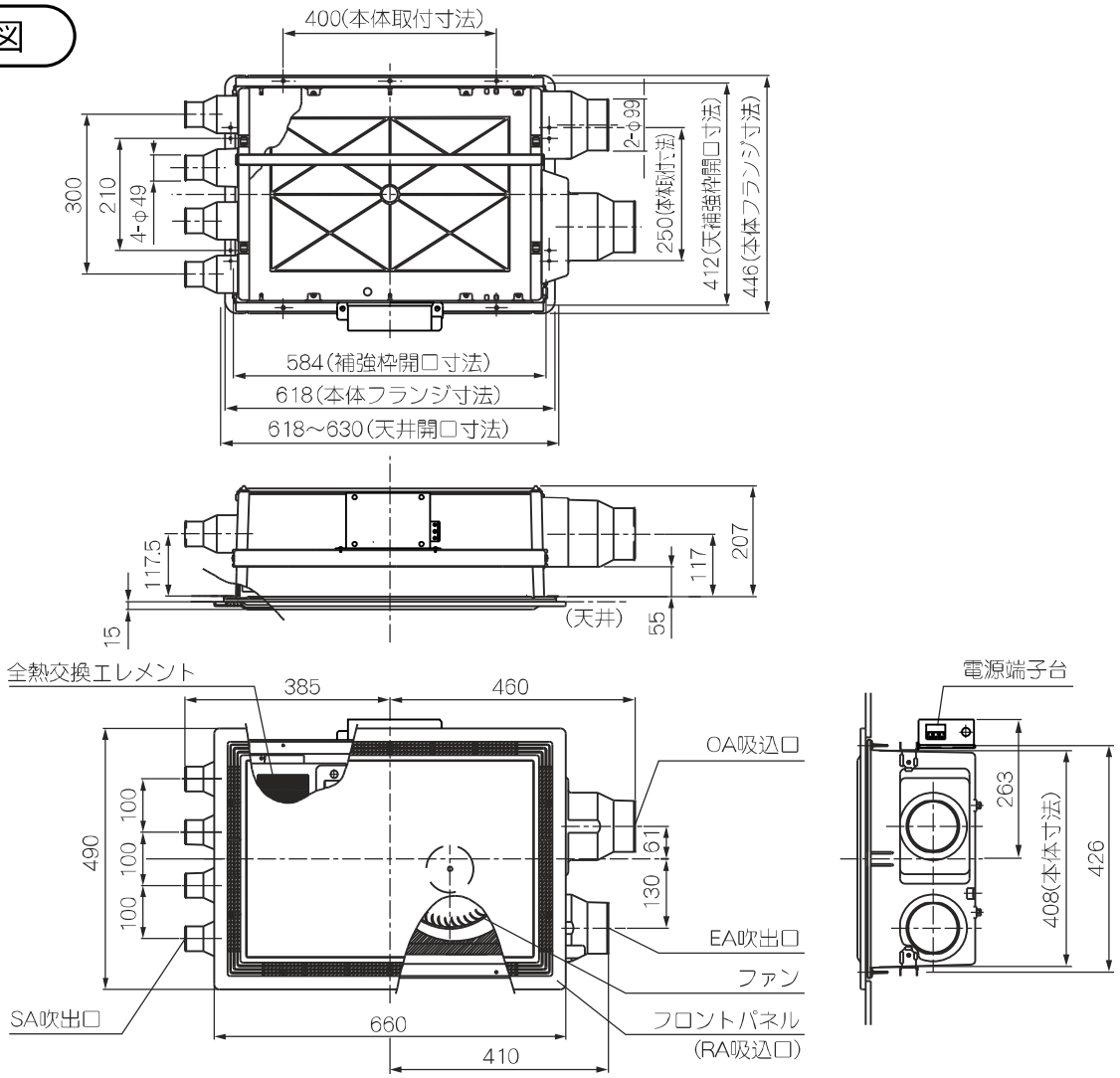
施工説明書 １冊
この施工説明書を表します。
※必ずお客さまにお渡しください。

本体組立図

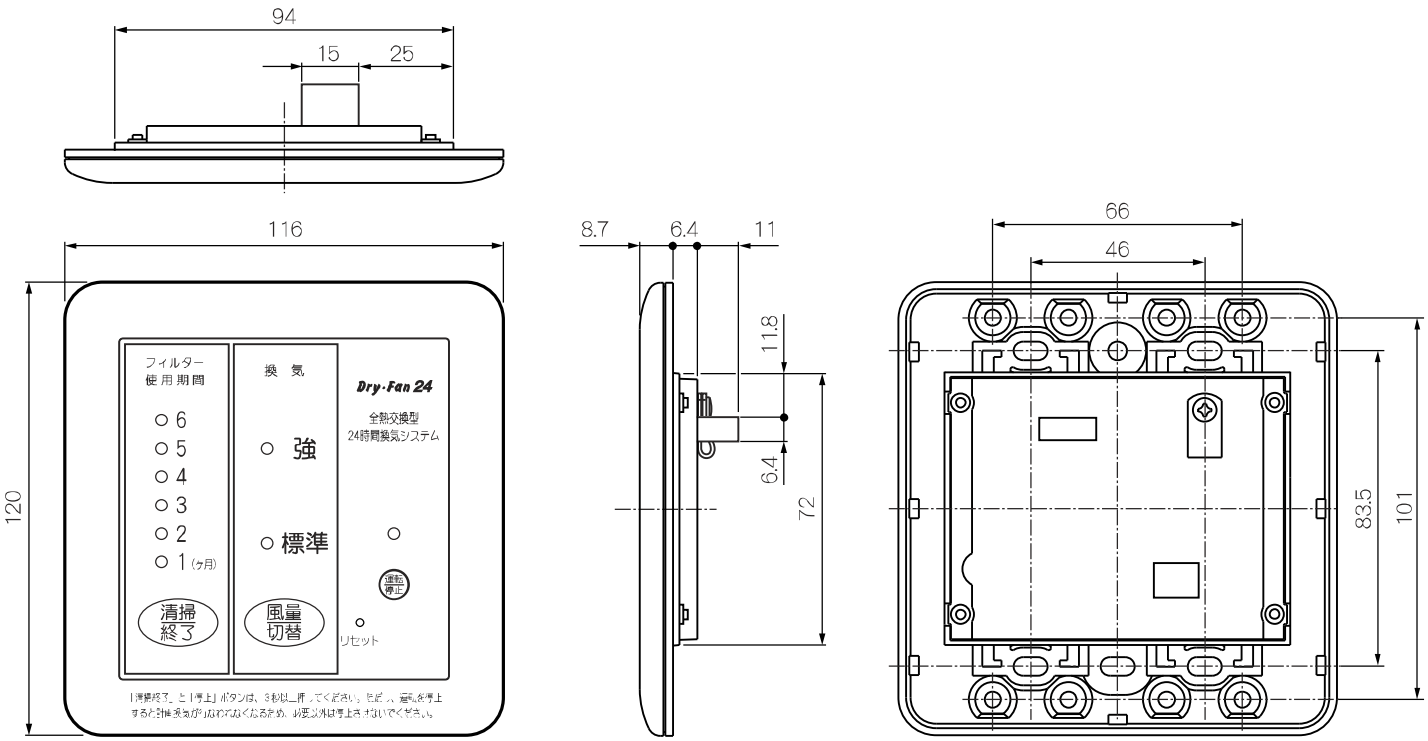


2-2 各部の名称と寸法（続き）[単位：mm]

本体外形寸法図



リモコン外形寸法図

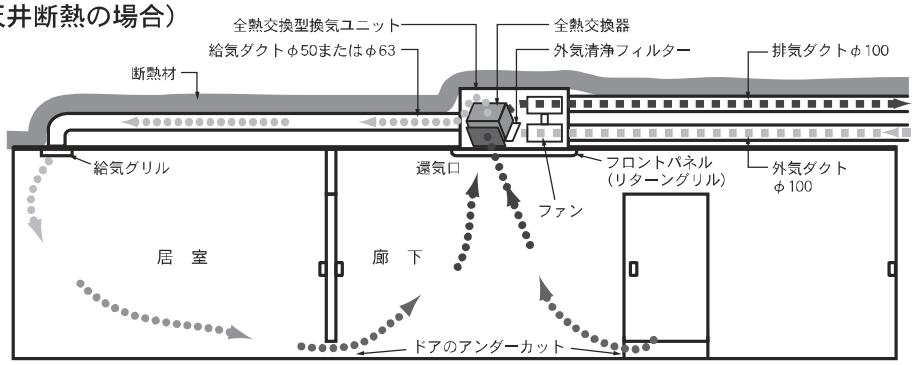


3 気をつけていただきたいこと

この全熱交換型換気ユニットは、天井取り付け専用です。

●納まり概念図

（天井断熱の場合）



⚠注意

取付注意

ダクトは必ず断熱空間内に設置してください。

断熱空間外に設置した場合、結露する恐れがあります。
断熱空間外に設置する場合は、断熱材料でおおってください。

●施工手順

第1期工事

本体取付準備
本体取り付け予定位置に本体取付開口部を設ける。
P 7

→

本体取付工事
本体取り付け位置に全熱交換機本体を取り付ける。
P 8,9

→

ダクト工事
給気ダクト、外気、排気ダクトを敷設する。
P 10,11

→

電気配線工事
本体に電源線を接続する。コントローラ取付位置にコントローラコードを配線する。
P 12～14

※本体取付工事とダクト工事の順序は逆になる場合もあります。

第2期工事

ベントキャップ取り付け
ベントキャップを取り付ける。
※第2期工事の時、屋内の給気グリル取付位置とコントローラの取付位置に、穴あけ作業が可能ならば穴あけを行う。
P 15～17

第3期工事

給気グリルの穴あけ工事
給気グリル取付位置に取付用の穴を開ける。
P 19

→

給気グリルの取り付け
給気グリルにφ50またはφ63ダクトを接続して、天井または壁に固定。
P 21

→

コントローラの取り付け
コントロ―ラ、取付位置に穴を開ける。
コントロ―ラ、を結線し取り付ける。
P 22

→

フロントパネルの取り付け
本体にフロントパネルを取り付ける。
P 23

■高温になる場所では使用しないでください。

故障の原因になります。

■次のような特殊な環境でのご使用は避けてください。

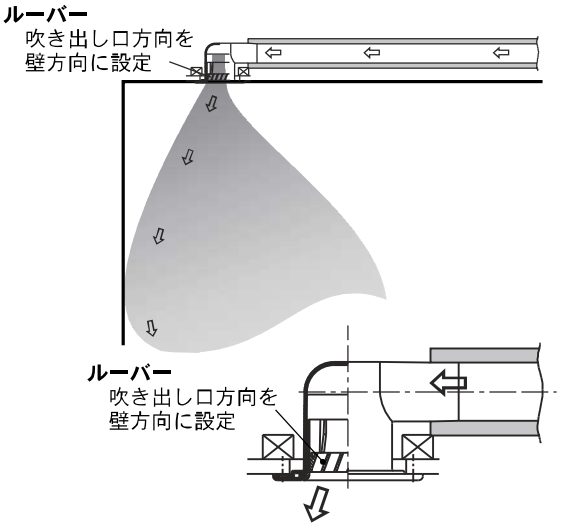
温泉など腐食しやすいガスが出る場所、異常に高温・多湿になる場所などでの設置はしないでください。
故障の原因になります。

4 各部材取り付け例（取り付け工事の前に必ずお読みください）

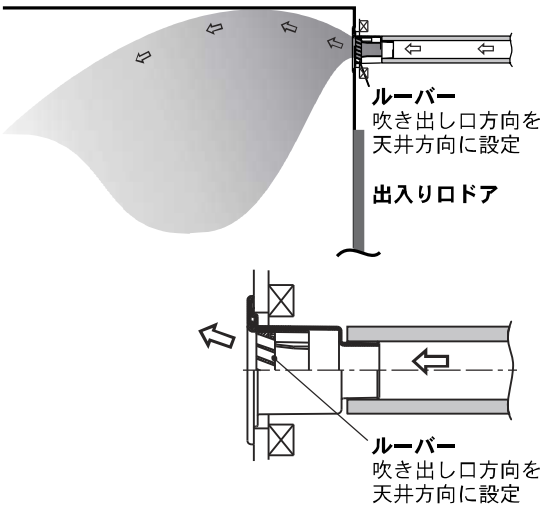
各部材取り付け例を示します。

●全熱交換型換気ユニット：住居中央付近、廊下の天井が標準的な取り付け位置となります。
※本体は必ず断熱空間内に設置してください。断熱空間外に設置する場合は断熱材料でおおってください。

●給気グリル　：各居室の出入り口（室内空気吹出し口）から離した位置の天井や壁に取り付けてください。
取り付ける位置により、ルーバーの向きを下図のように変えてください。



出入り口から遠い部屋の隅に取り付ける場合



ドアの上壁に取り付ける場合

●ベントキャップ　：外壁で外観を損なわず、掃除機などで清掃できる場所に設置してください。
※レンジフード、トイレ、浴室等の換気扇排気フード、給湯器などの燃焼機器の排出部からの排気が回りこまないようできるだけ離れた位置に取り付けてください。（外気側）

●コントローラ　：コントローラは、操作のしやすい位置（本体付近の壁が標準的な位置）に取り付けてください。☞ P12 9-1 電気配線工事 参照

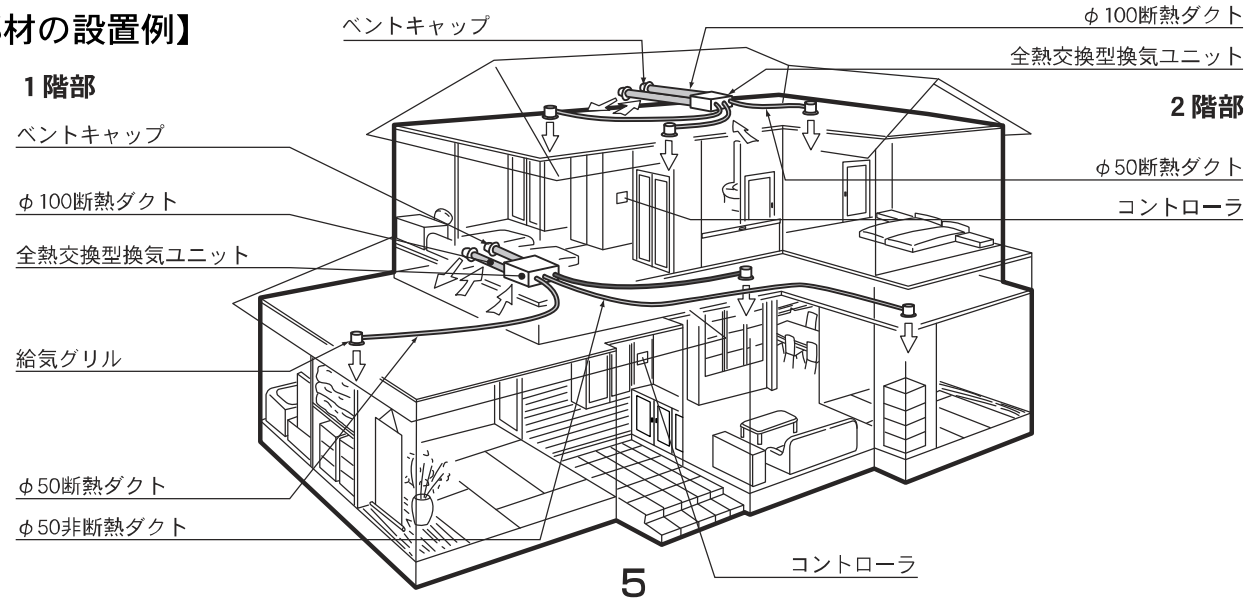
●給気用ダクト　：本体換気ユニットと各室給気グリル間
☞φ50非断熱ダクト（別売品）
☞φ50、φ100断熱ダクト（別売品）
☞φ50、φ63、φ100不燃・断熱ダクト（別売品）

外気・排気用ダクト：本体換気ユニットとベントキャップ間
☞φ100断熱ダクト（別売品）

※次のようなダクト工事はしないでください。風量低下の原因になります。
・極端な曲げ（90°以上曲げないでください。）
・多数の曲げ（曲げ数が多くなれば風量が低下します。）
・排気口のすぐそばでの曲げ
・接続ダクト径を極端に小さくする。（しぼり）

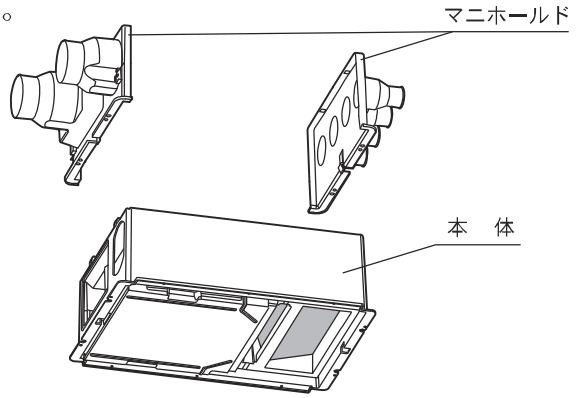
※ダウンライト等熱くなるもの付近への配置、くぎ等鋭い部材付近への配置は避けてください。
ダクトが傷付き穴があくと換気風量低下の原因となります。
※ダクトは必ず断熱空間内に設置してください。断熱空間外に設置する場合は断熱材料でおおってください。

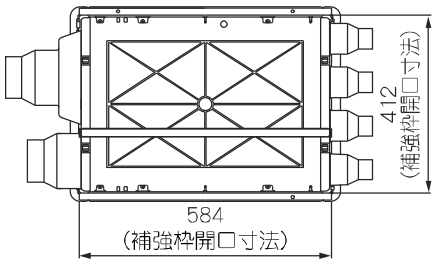
【各部材の設置例】



5 本体取付の注意点（本体取付開口部の仕様と注意点）

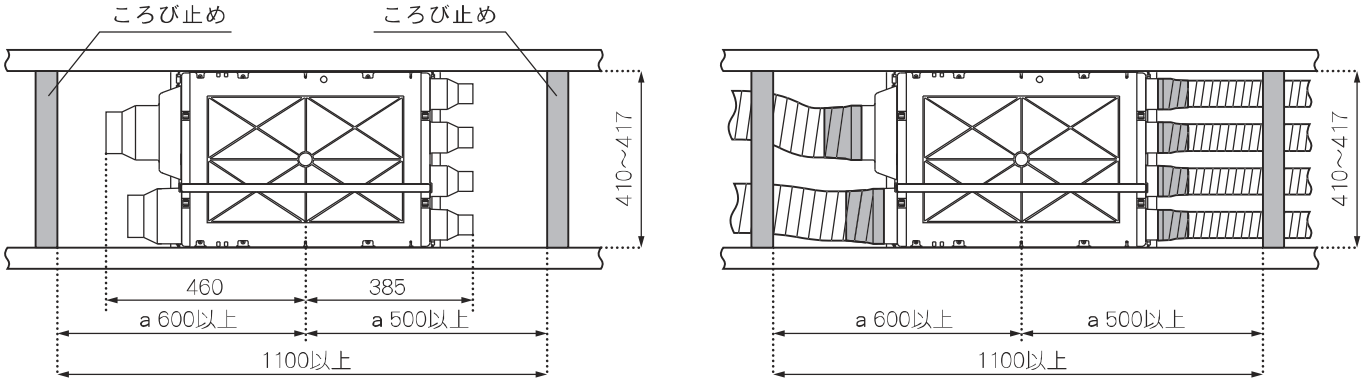
※下記注意点は2×4工法で1階を記載していますが、2階への取付や在来工法の取付でも干渉の考え方は同じなので、注意してください。
『全熱交換型24時間換気扇ES-8100DC』の本体は、下記のように本体とマニホールドの3部品から構成されています。



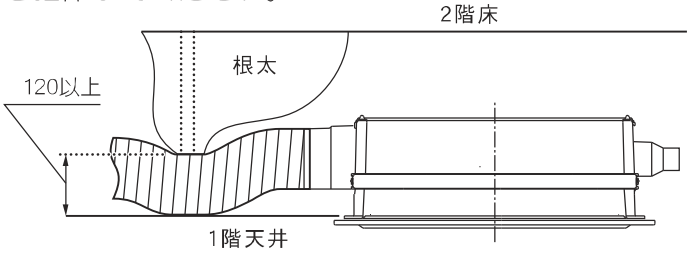


本体の取付寸法は、412×584となっています。根太間（410）に収まりますが、ころび止め等と『マニホールド』等との干渉が発生し、取り付けられない場合があります。下記の注意事項を参照の上、スペースを確保してください。

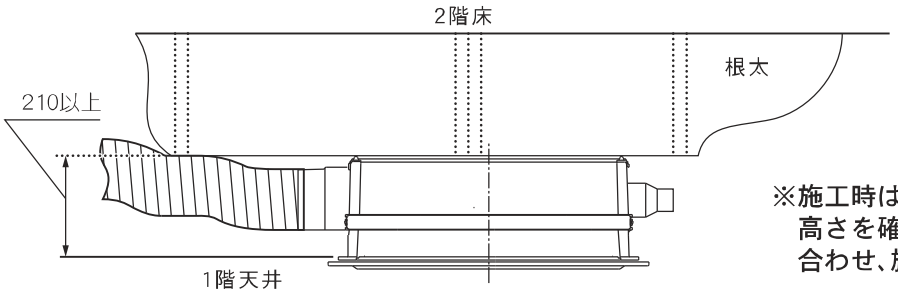
①本体取付開口部はaの寸法の確保（ころび止め間隔）をお願いします。
取付必要開口スペースは1100×412（内寸）となります。
ダクトのテープ巻きスペース及び、φ100、共に曲がり（水平、上下方向）が発生する為。



②ころび止めなどにダクトルートが確保できない場合、天井面と根太などの間に外気・排気ダクト（φ120）スペース（120以上）を確保してください。



③根太の片側がダブルで施工して十分なスペースが取れない場合や、根太向きが90°違うなどして、根太間に本体が収まらない場合、本体が取り付けられる高さを確保してください。



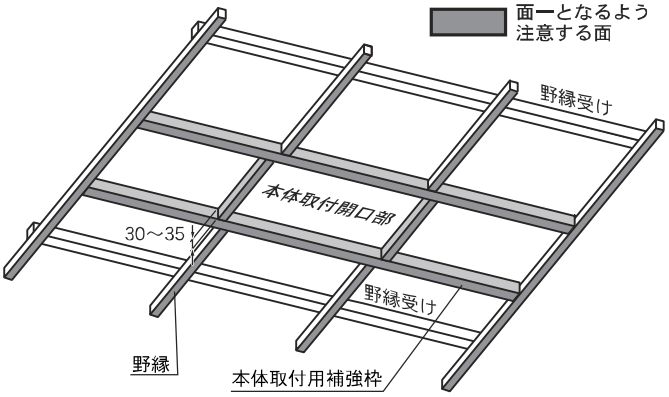
※施工時は1階の天井の仕上げ高さを確認し、その高さに合わせ、施工する。

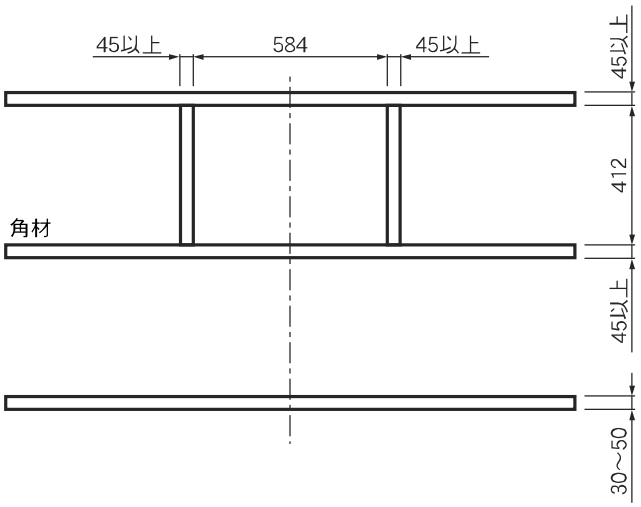
6 本体取付準備

在来工法

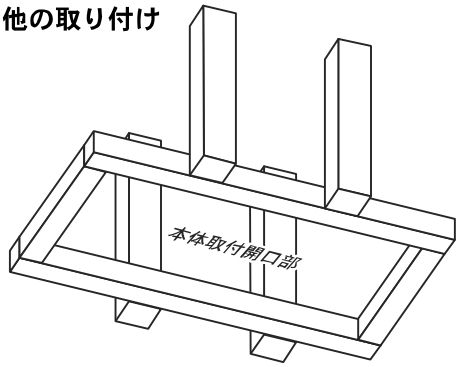
内寸法で412×584㎜となるように木枠を組み、本体取付予定位置に本体取付開口部を設けてください。

●本体を面一に取り付ける場合





●その他の取り付け



⚠注意

取付注意 **使用する角材の高さ方向の厚みは30～35㎜とする。**
開口の角の直角度を正確に取り付ける。

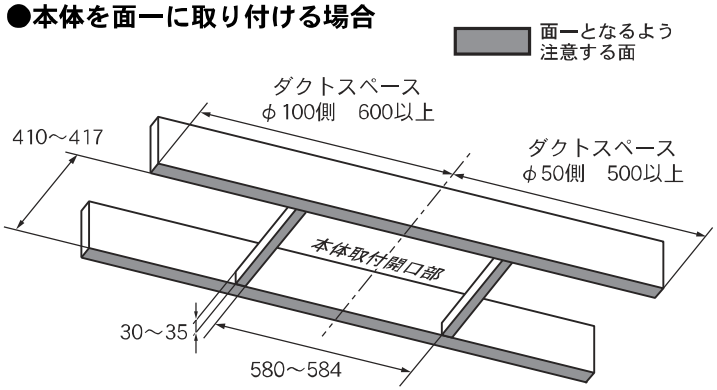
⚠注意

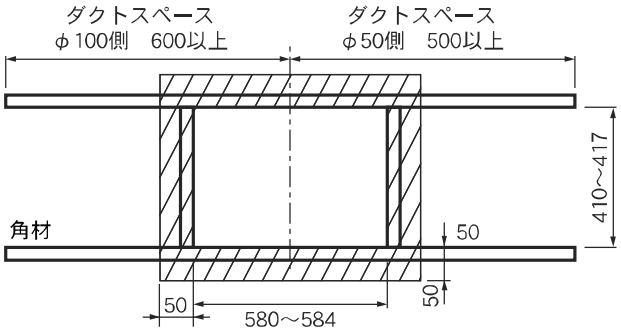
取付注意 **補強枠と野縁の下面が面一となるように取り付ける。**

2×4工法

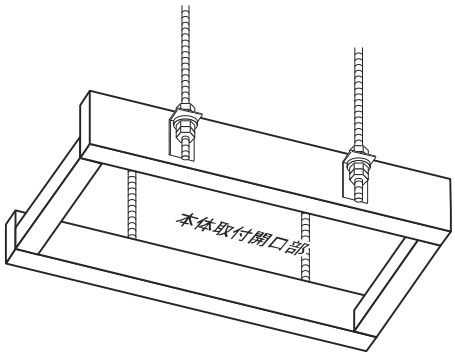
根太間(410～417)にダクトスペース(及びルート)を確保し、本体取付用野縁を取付る。

●本体を面一に取り付ける場合





●その他の取り付け

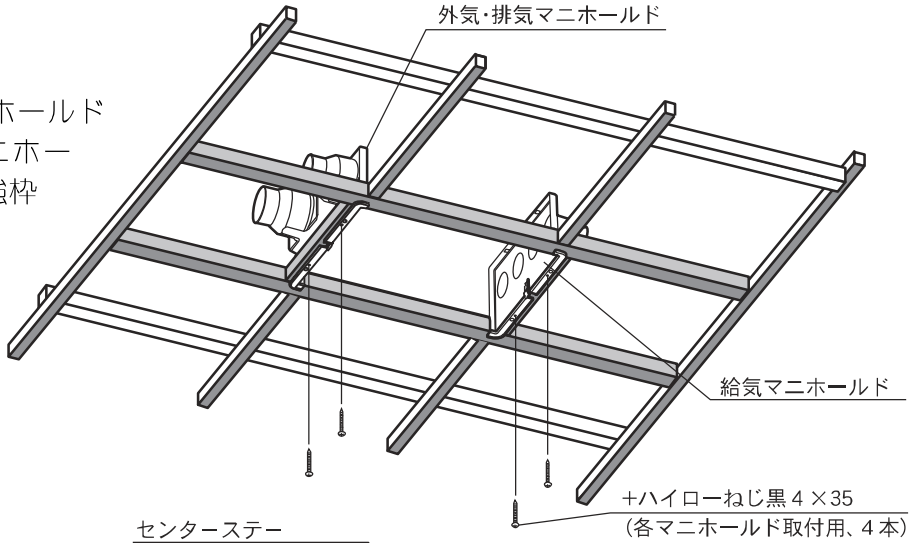


⚠注意

取付注意 **本体取付開口部周り、外周50mm以内にダウンライト、壁等の障害物の設置を避ける。**
フロントパネルが取り付かなくなる恐れがあります。

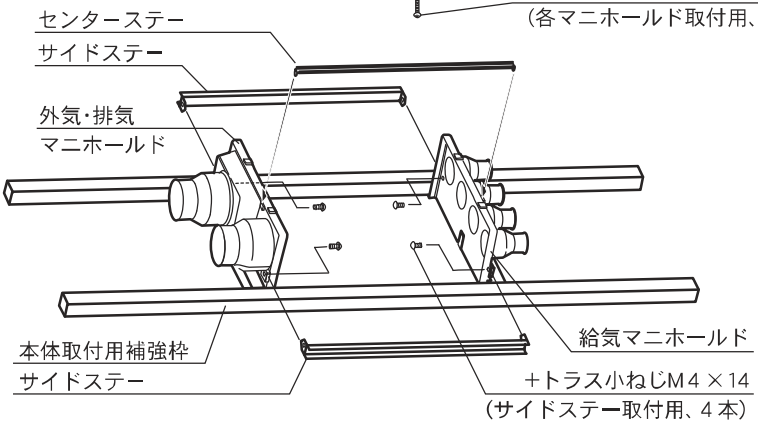
在来工法

①給気マニホールド、外気・排気マニホールドを+ハイローねじ黒４×35（各マニホールド取付用）４本で、本体取付用補強枠に固定してください。



②サイドステー（２本）を給気マニホールドと外気・排気マニホールド間に差し込み、+トラス小ねじM４×14（サイドステー取付用）４本でマニホールド間を固定してください。

③センターステーを上から差し込み、マニホールド間を固定してください。

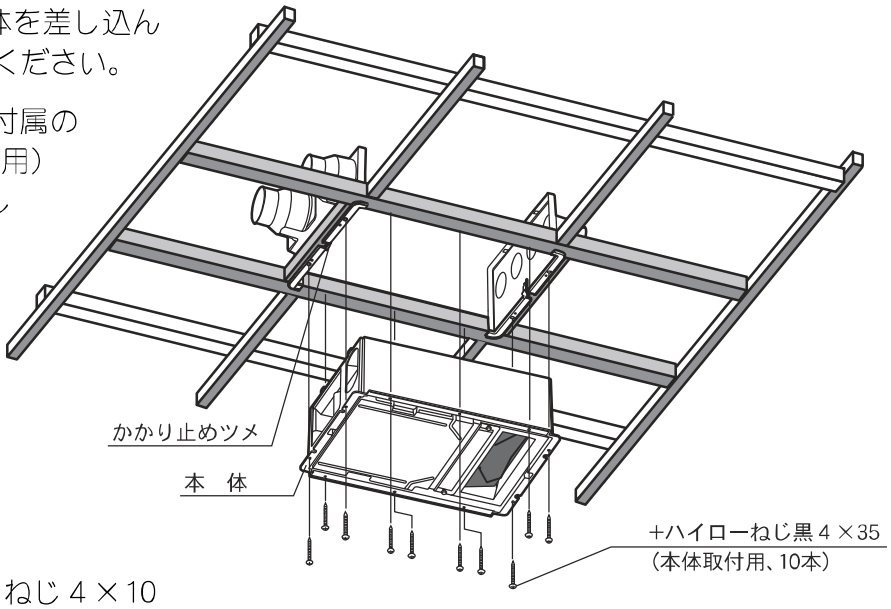


④マニホールドの枠組みの下から本体を差し込んで、かかり止めツメにに引っ掛けてください。

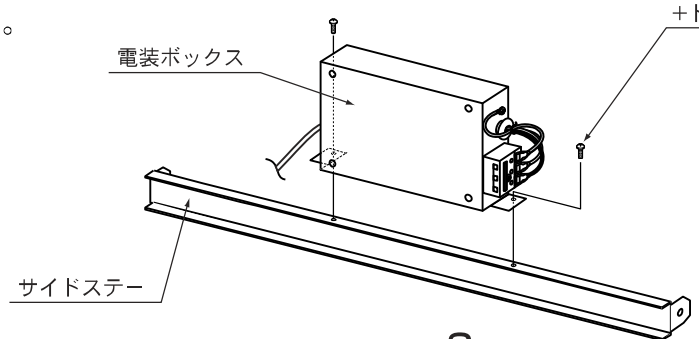
⑤手や頭などで本体を押さえながら付属の+ハイローねじ黒４×35（本体取付用）10本で、本体取付用補強枠に固定してください。

⚠注意

取付注意 **かかり止めツメのみの固定でその場を離れない。**
本体の落下により、けがをする恐れがあります。



⑥電装ボックスを+トラスラミタイトねじ４×10（電装ボックス取付用）２本でサイドステーに取り付けてください。

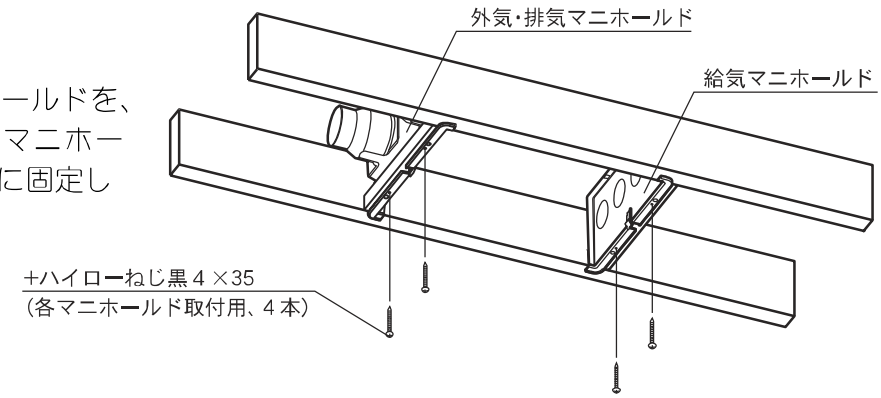


⚠注意

取付注意 **サイドステーを取り付けない場合は、根太等（野縁）に取り付けて下さい。**

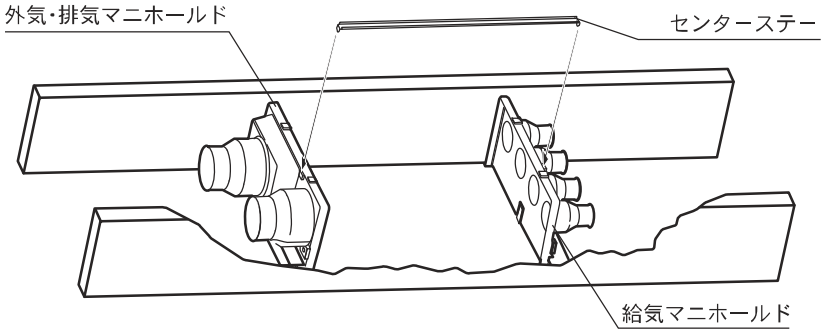
２×４工法

①給気マニホールド、外気・排気マニホールドを、付属の+ハイローねじ黒４×35（各マニホールド取付用）４本で、本体取付用野縁に固定してください。



②センターステーを上から差し込み、マニホールド間を固定してください。

※2×4工法では根太間に本体を設置した場合は、サイドステー取付用スペースが取れないため、サイドステーは取り付けません。



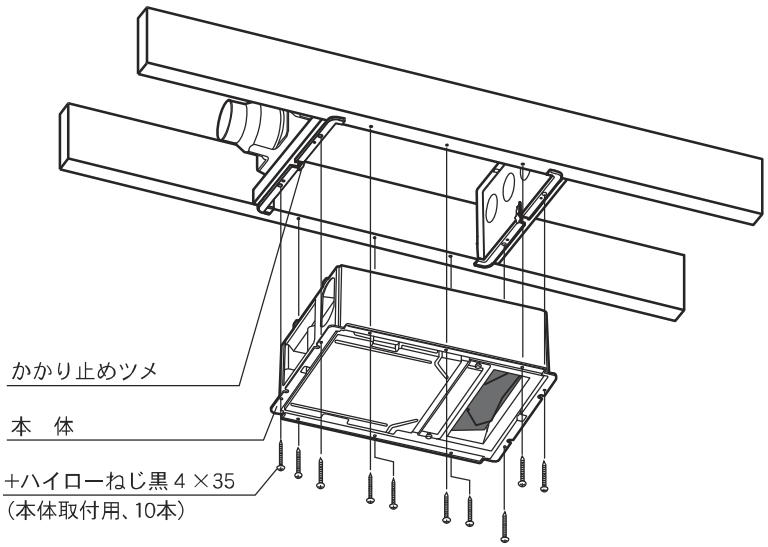
③マニホールドの枠組みの下から本体を差し込んで、かかり止めツメに引っ掛けてください。

④手や頭などで本体を押さえながら付属の+ハイロ－ねじ黒４×35（本体取付用）10本で、本体取付用補強枠に固定してください。

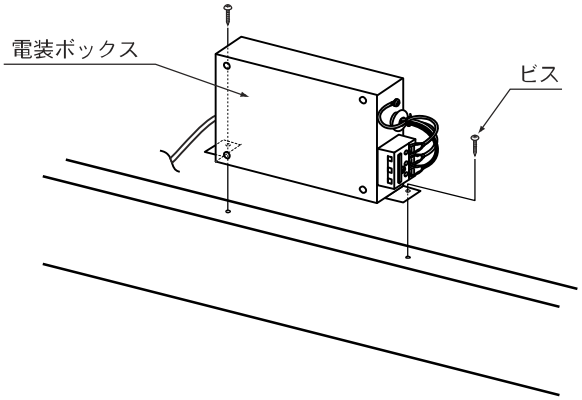
⚠注意

取付注意

かかり止めツメのみの固定でその場を離れない。
本体の落下により、けがをする恐れがあります。



⑤電装ボックスをビス２本で取り付けてください。



給気ダクト

①φ50またはφ63ダクト（別売品）を本体取付付近から差し込み、給気グリル取付位置まで配管してください。配管するとき、尖ったものなどに接触し、ダクトに穴が開かないように注意してください。

②φ50またはφ63ダクトを給気グリル取付位置まで配管したら配管余裕をとって本体側で切断してください。

③ダクトが構造材などで支持できないときは、「結束バンドまたはインシュロック」で固定して、固定間隔は1.5m以下としてください。この時ダクト、結束バンドが天井ボードなどに干渉（垂れ下がるなど）しないように注意してください。

④給気グリル取付位置に構造材などを利用して、給気グリル取付用の下地材を取り付けてください。取付位置は居室の角よりできるだけ対角線上に施工してください。（300mm～400mm程度。寸法は建物毎に統一し、値を図面に明記してください。）

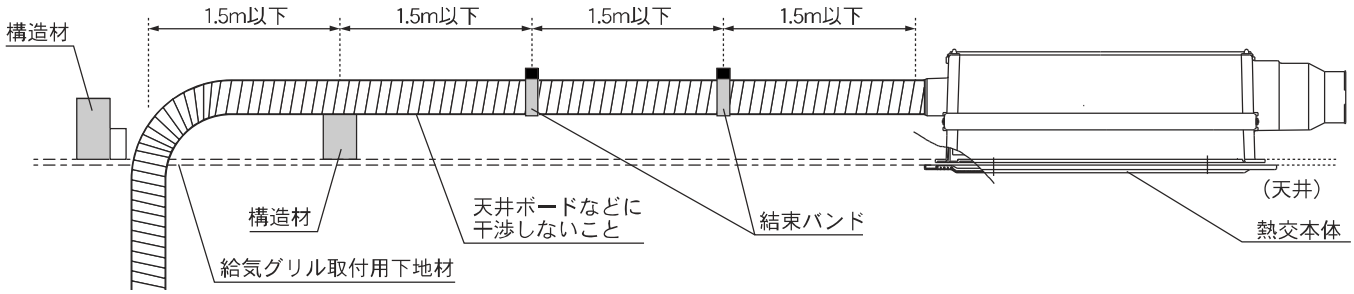
⑤以上の施工を各給気グリル取付位置について行ってください。

⚠注意

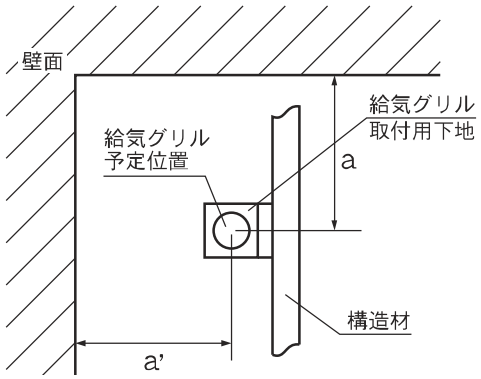
取付注意

工事段階で常時給気グリルの取付位置が明確になるように、給気グリルの取付位置でのダクトの仮固定を行う。

ダクト配管方法

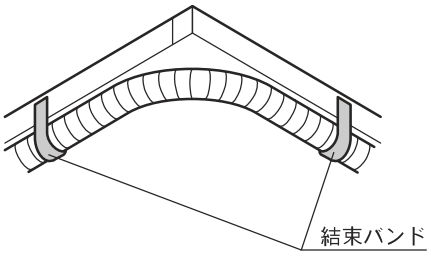


給気グリル取付用下地材取付方法



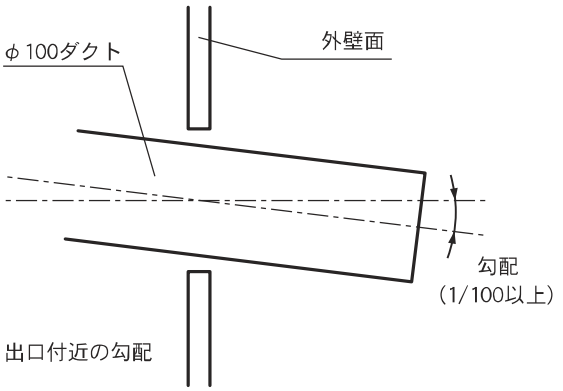
aとa' の寸法は、できるだけ同一寸法としてください。また、その寸法は施工図面に記載してください。給気グリル取付用の下地材の寸法は、使用する給気グリルのネジ穴寸法に合わせて位置決めしてください。

ダクト（曲がり部）の固定方法

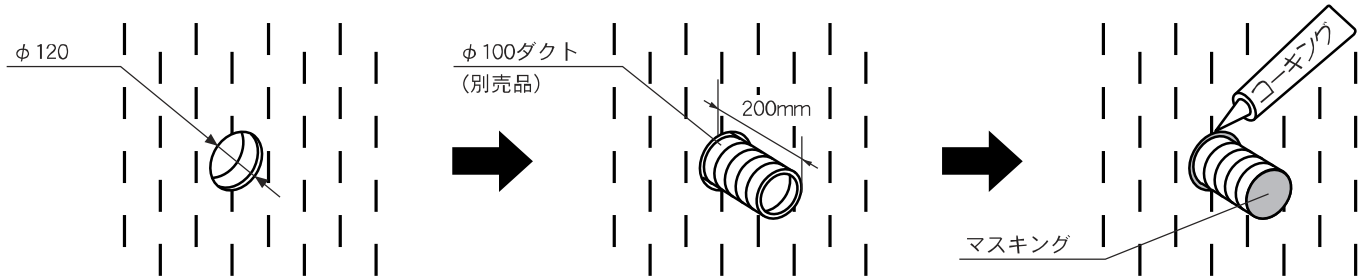


曲がりの前後にそれぞれ結束バンドで固定する

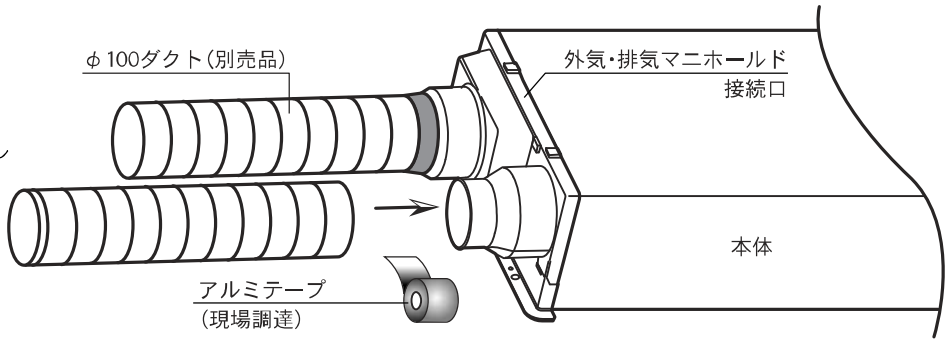
外気･排気ダクト



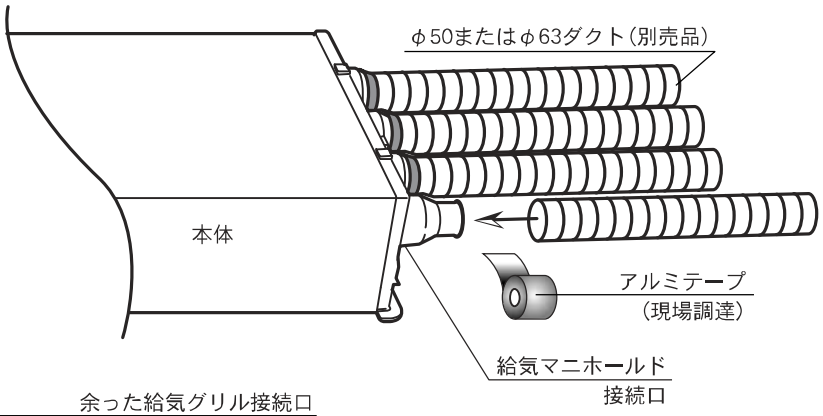
⑥外壁にφ120の穴を開けてください。
⑦φ100ダクト（別売品）を本体取付付近から差し込み、ベントキャップ取付位置でダクトを外側に200mm出した状態で配管してください。このとき出口付近で各ダクトに勾配（1/100以上）を確保してください。外気ダクト、排気ダクトが短い場合は、雨水が浸水しないよう深型フードを使用してください。配管するとき、尖ったものなどに接触し、ダクトに穴が開かないように注意してください。
⑧ダクトが構造材などで支持できないときは、「給気ダクト」と同じように「結束バンド」で固定して、固定間隔は1.5m以下としてください。この時ダクト、結束バンドが天井ボードなどに干渉（垂れ下がるなど）しないように注意してください。
⑨壁面材とダクト間にコーキングを施してください。※工法に合った防水処理を施してください。
⑩ダクト内及び断熱材に雨水、鳥獣、昆虫などが入らないようにマスキングをしてください。
⑪以上の施工を各ベントキャップ取付位置について行ってください。



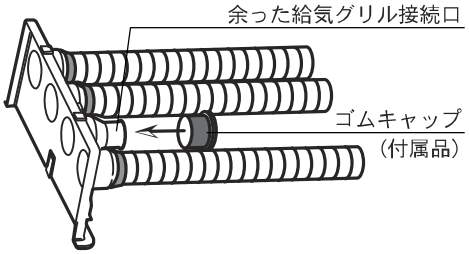
⑫外気･排気マニホールド接続口とφ100ダクト（別売品）をつなぎ、アルミテープ（現場調達）で固定してください。



⑬給気マニホールド接続口とφ50またはφ63ダクト（別売品）をつなぎ、アルミテープ（現場調達）で固定してください。



⑭給気マニホールドの余った接続口には、ゴムキャップ（付属品）をかぶせてください。



※ゴムキャップが足らない場合、アルミテープで気密が取れるようにふさいでください。

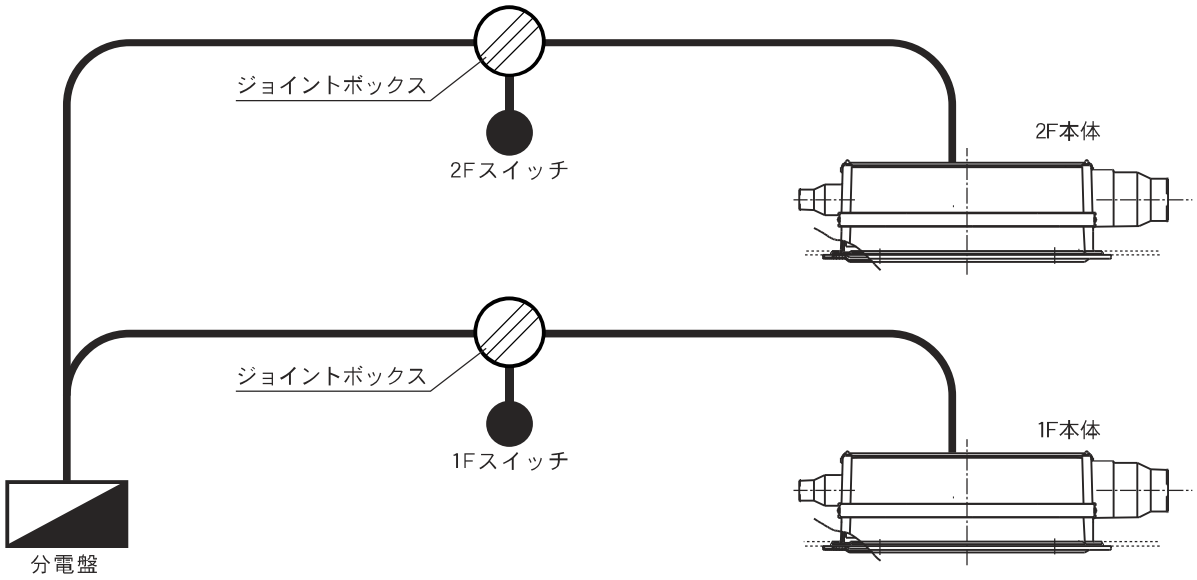
⚠注意

取付注意

アルミテープは、らせん状に最低3周以上巻く。

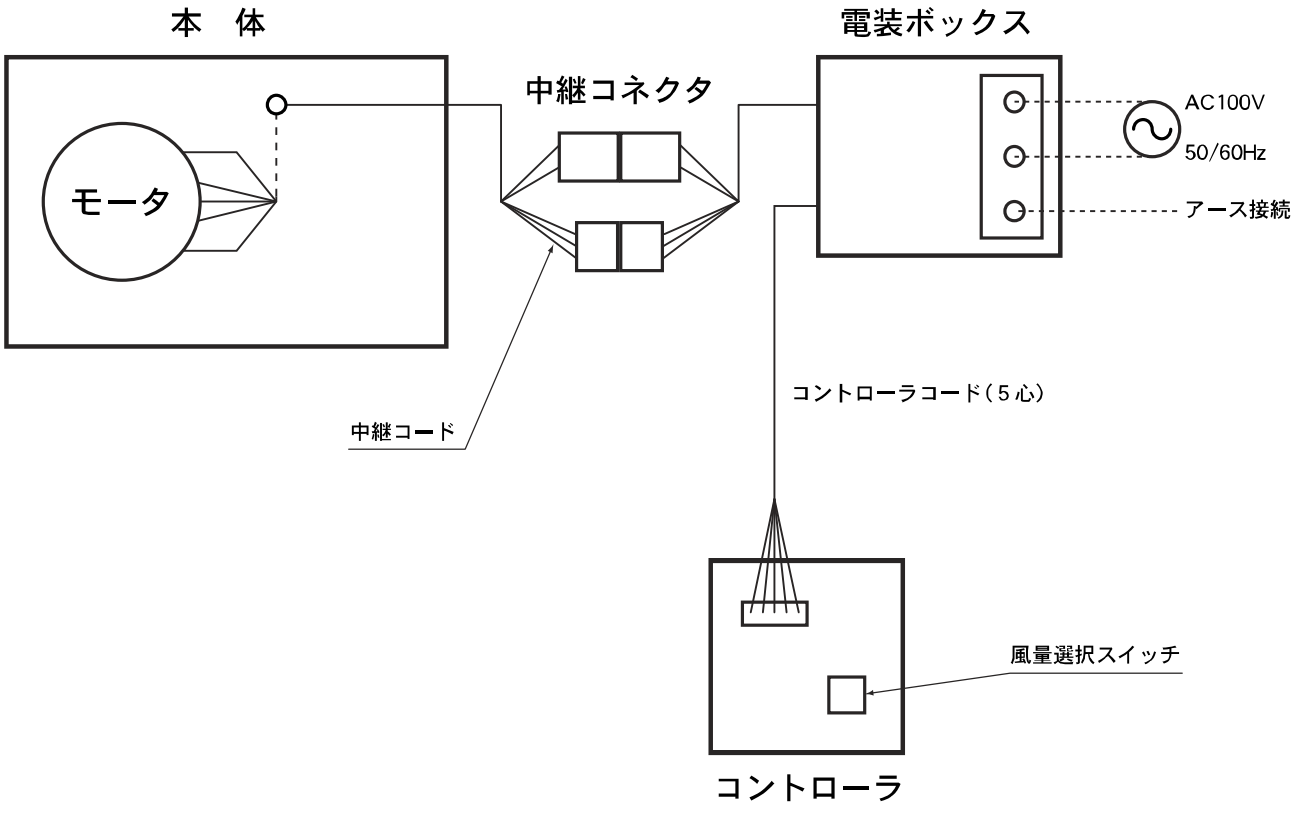
電気設備工事

2心VVFケーブル(現場調達、φ1.6～2.0mm)を分電盤から本体、スイッチ取付位置まで配線をしてください。

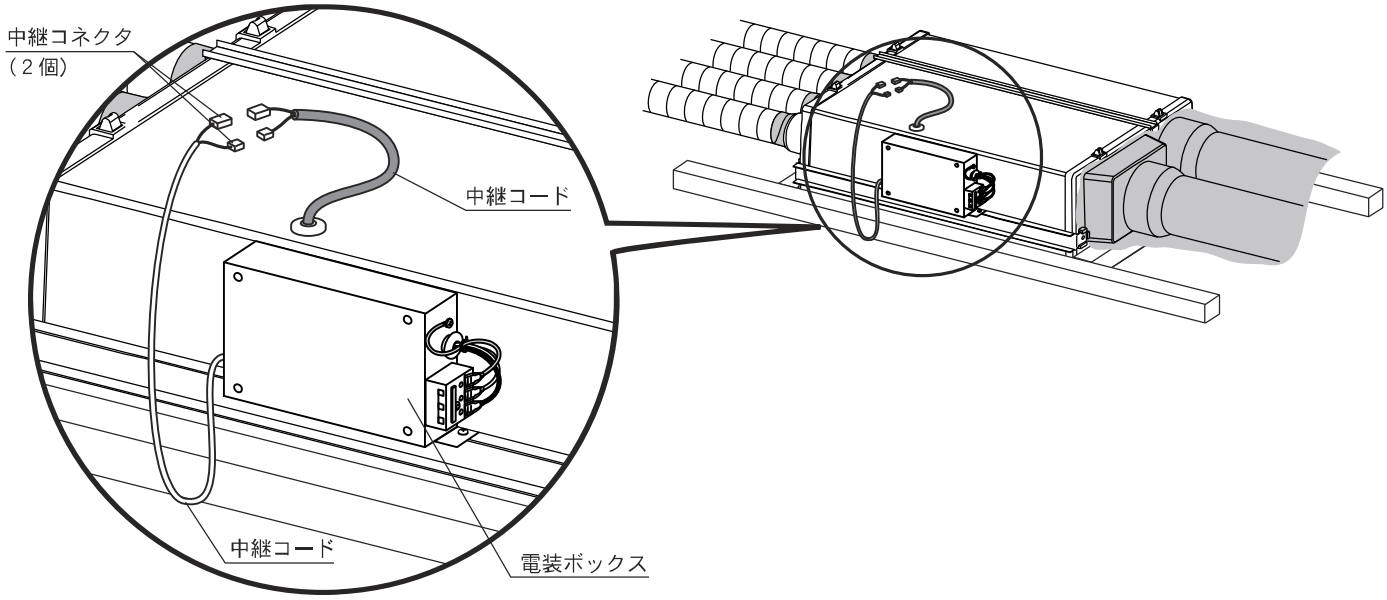


※本体への電源供給は、分電盤より単独(専用)回路としてください。但し、1F、2F本体への電源は同じ回路でもかまいません。

結　線　図



①電装ボックスと本体背中にある中継コードを接続してください。

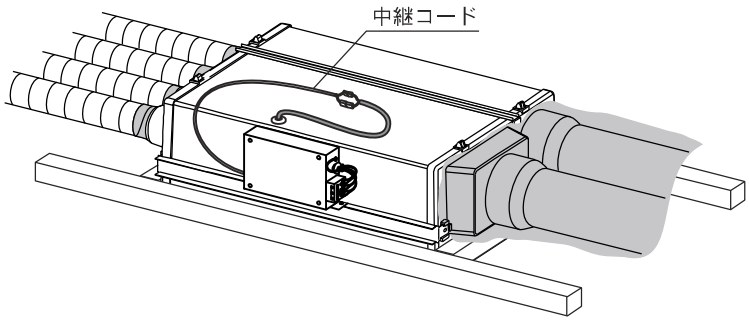


⚠注意

取付注意

中継コネクタは２個あります。２個とも確実に接続してください。
接続不良は誤作動の原因となります。

②接続した中継コードを本体の上に乗せてください。



③３心VVFケーブルの被膜をむき、３P端子台に心線がむき出しにならないように「ぐっと」奥まで差し込んでください。

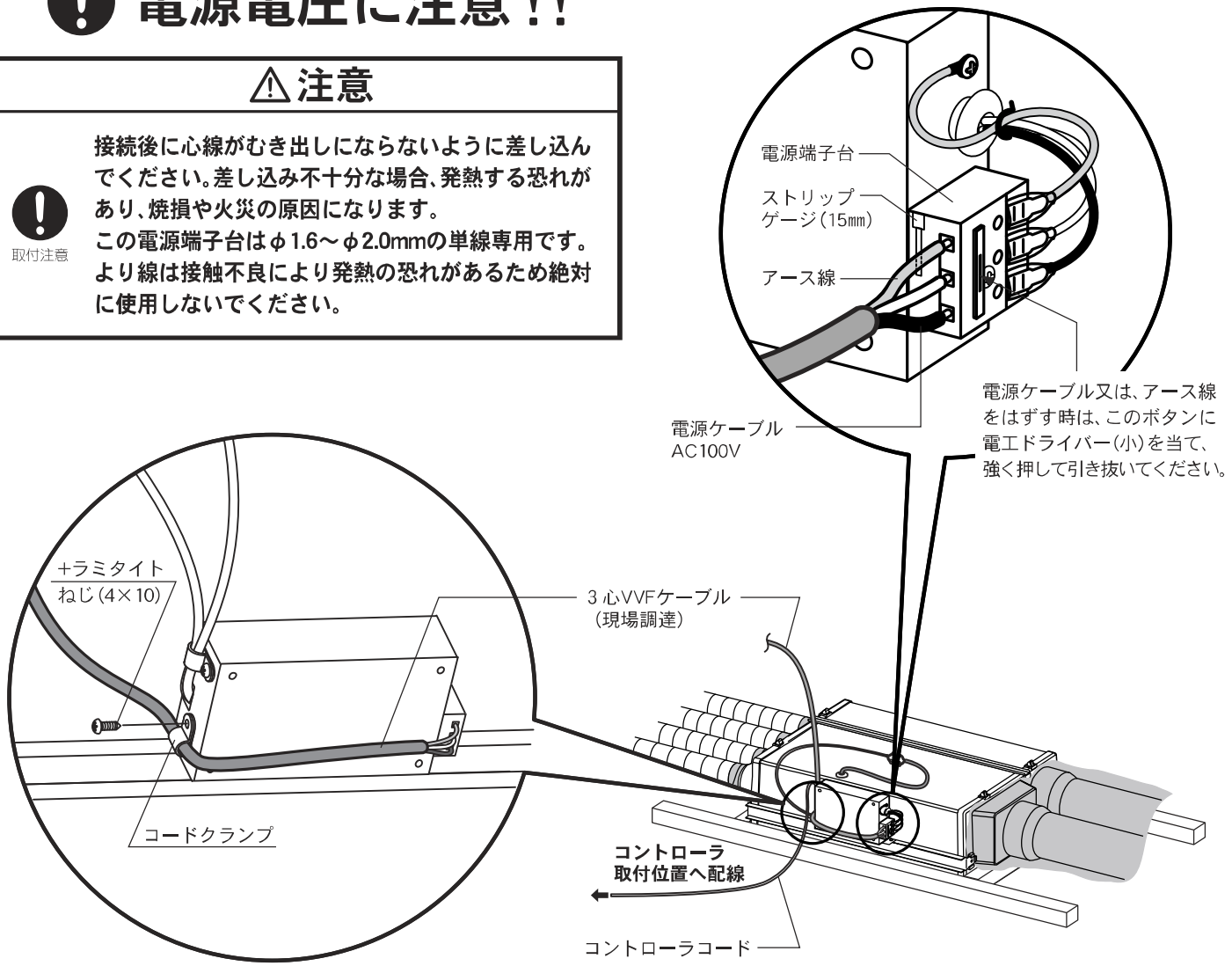
指定電圧	単相AC100V

電源電圧に注意!!

⚠注意

取付注意

接続後に心線がむき出しにならないように差し込んでください。差し込み不十分な場合、発熱する恐れがあり、焼損や火災の原因になります。
この電源端子台はφ1.6～φ2.0mmの単線専用です。より線は接触不良により発熱の恐れがあるため絶対に使用しないでください。



④３心VVFケーブルを３P端子台に差し込んだ後、電装ボックスの外側をまわし、反対側面のコードクランプで固定してください。

⑤コントローラコードをコントローラ取付位置まで配線してください。

10-1 ベントキャップ取り付け〈壁取付〉

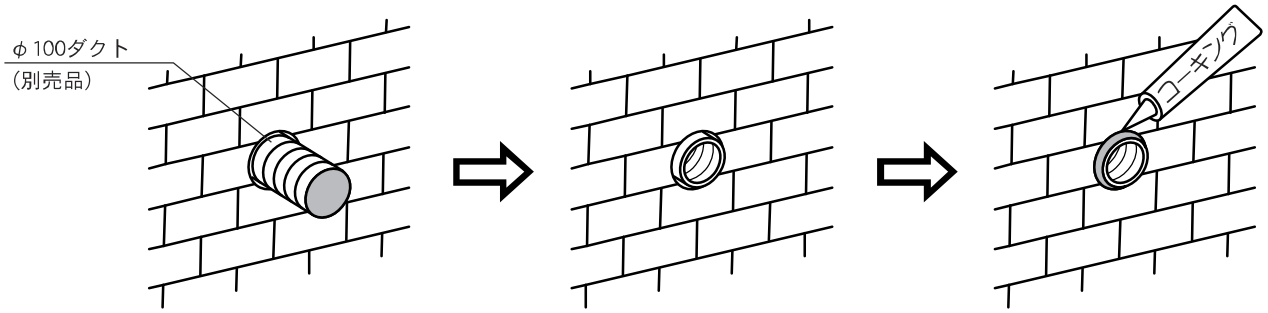
第２期工事

【サイディング外壁】

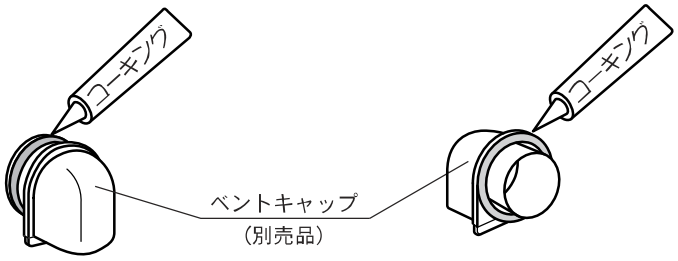
※外壁仕上げがサイディングの場合、監督等に確認の上、コーキングはクリアシリコンを使用する。

①外壁工事終了後、外壁より出ているダクトを外壁面と同じ面で切断してください。

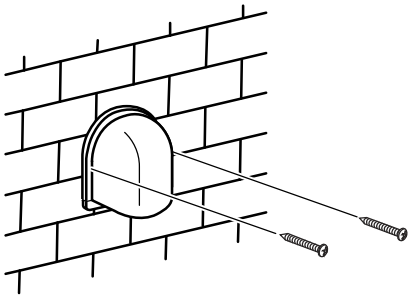
②ダクトと外壁とのすき間にコーキングを充填してください。



③ベントキャップのダクトとの接合部と、ベントキャップと壁面の接合部分のそれぞれ全周にコーキングを充填してください。

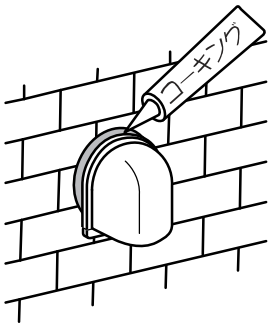


④　③で用意したベントキャップを水平に取付け、ビスで固定してください。



⑤ベントキャップと外壁の間の全周にコーキングを施してください。

※内側コーキングのみで仕上げる物件については、この作業を行わないでください。



⚠注意

取付注意

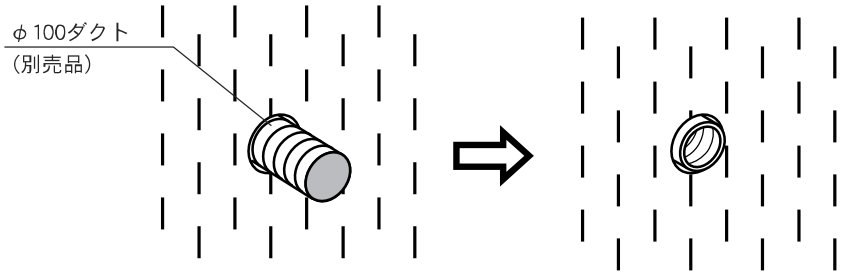
施工についての詳細はベントキャップに付属してある説明書を参照に行う。

10-2 ベントキャップ取り付け〈壁取付〉（続き） 第２期工事

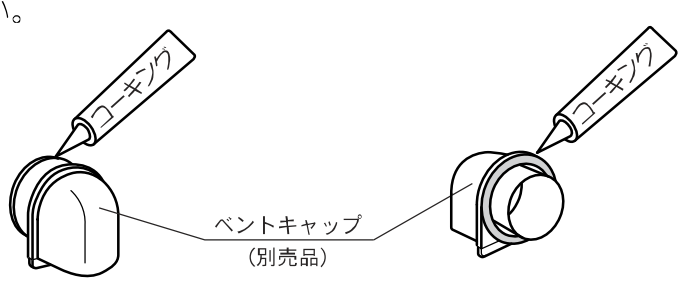
【塗り壁外壁】

※外壁仕上げがモルタルで塗装前の場合、監督等に確認の上、コーキングはウレタンを使用する。
塗装後の場合は、監督と確認の上、クリアシリコンを使用する。

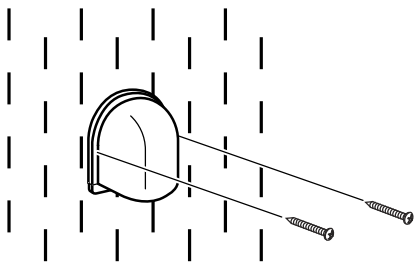
①外壁工事終了後、外壁より出ているダクトを外壁面と同じ面で切断してください。



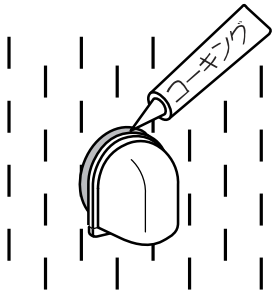
②ベントキャップのダクトとの接合部と、ベントキャップと壁面の接合部分のそれぞれ全周にコーキングを充填してください。



③ ②で用意したベントキャップを水平に取付け、ビスで固定してください。



④ベントキャップと外壁の間の全周にコーキングを施してください。
※内側コーキングのみで仕上げる物件については、この作業を行わないでください。



⚠注意

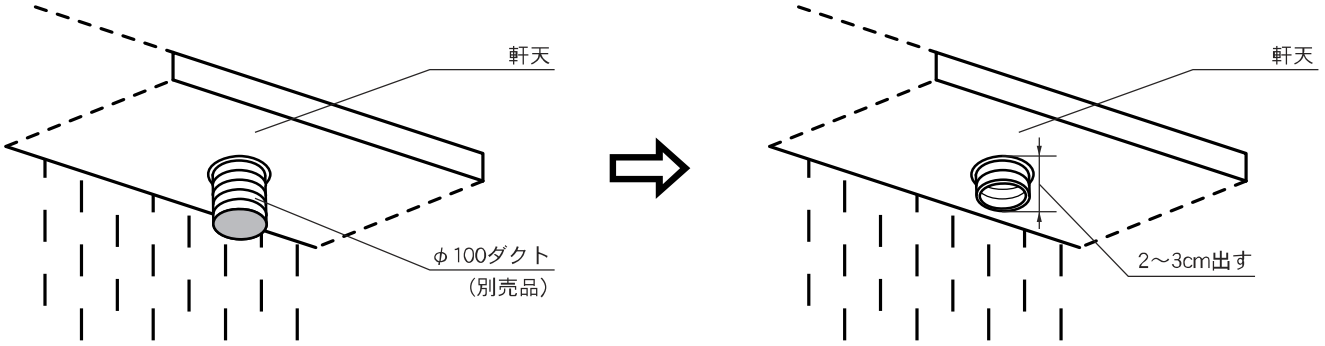
取付注意

施工についての詳細はベントキャップに付属してある説明書を参照に行う。

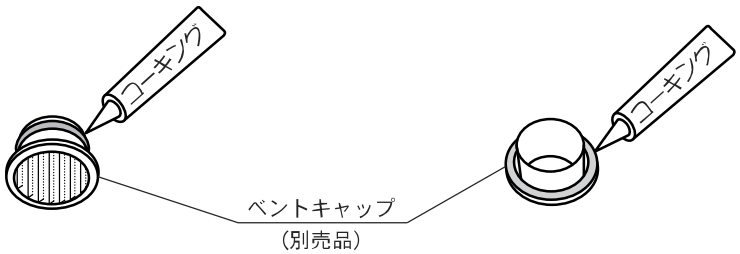
10-3 ベントキャップ取り付け〈軒天取付〉

第２期工事

①軒天工事終了後、軒天より出ているダクトを軒天面より少し2～3cm出して切断してください。

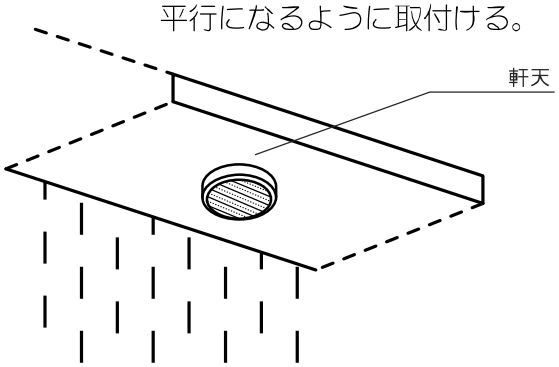


②ベントキャップのダクトとの接合部と、ベントキャップと軒天面の接合部分のそれぞれ全周に
コーキングを充填してください。

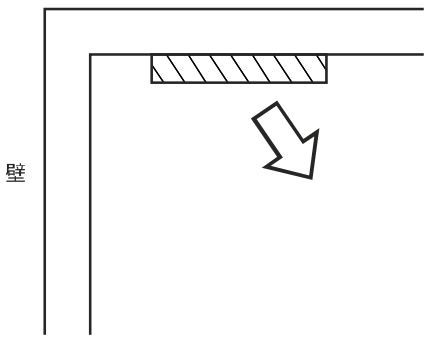


③ベントキャップを取付け、ビスで固定してください。

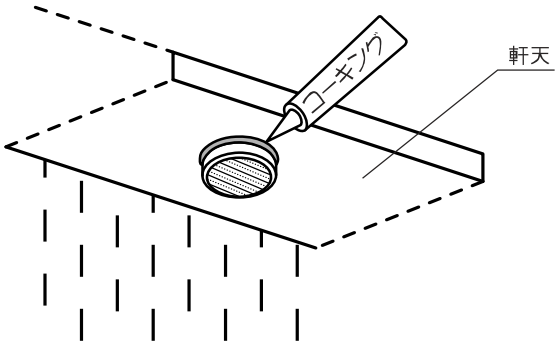
※この時、ルーバーの向きが壁面と
平行になるように取付ける。



※ルーバーの向きは壁と逆向きに取り付ける。



④ベントキャップと軒天の間の全周にコーキングを施してください。
※内側コーキングのみで仕上げる物件については、この作業を行わないでください。



⚠注意

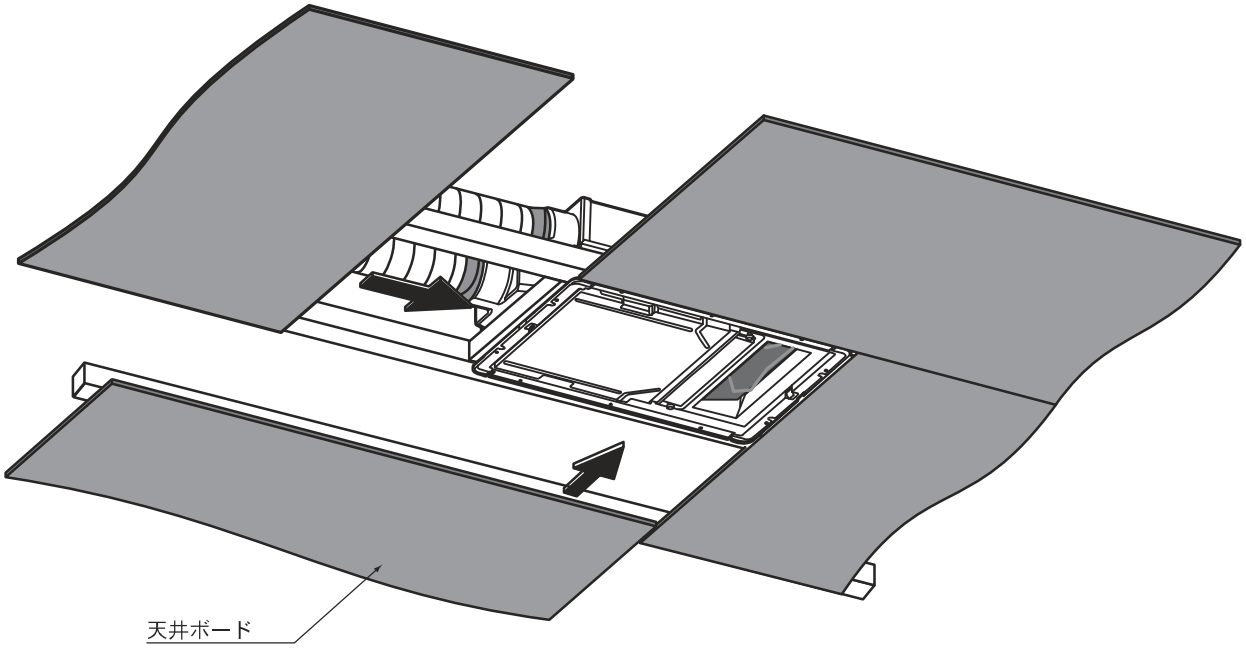
取付注意

**施工についての詳細はベントキャップに
付属してある説明書を参照に行う。**

11 天井ボード施工

第３期工事

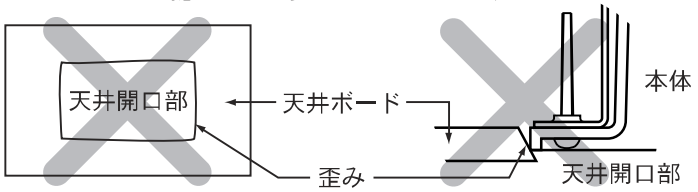
①本体取付開口部まわりでの天井ボードの施工は図１を参照としてください。
　天井ボードを取り付ける際、本体フランジ、マニホールドフランジとの間隔は3mmとしてください。



⚠注意

取付注意

開口部の切り口は歪まないないようにする。
また、本体を覆い隠して貼り、後で開口する方法は絶対にやらない。
本体破損やフロントパネルで天井ボード木口を隠せない等の恐れがあります。



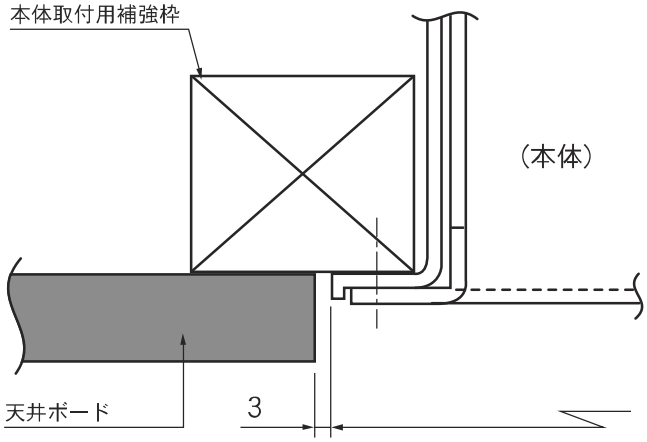
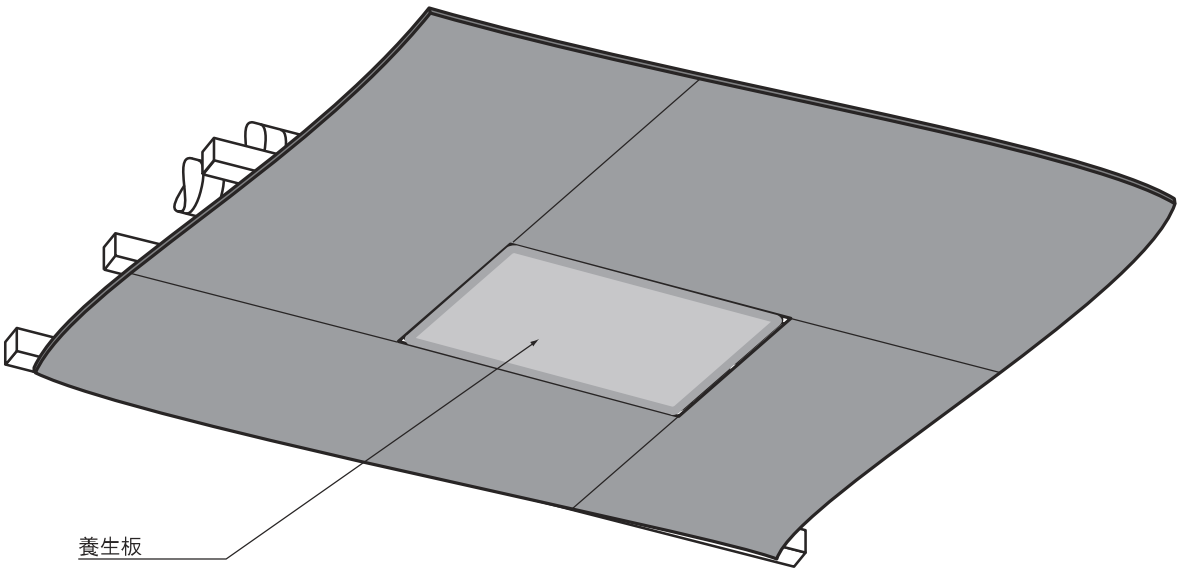


図1 天井ボードー本体,マニホールドフランジ寸法図

②天井ボード施工後、梱包箱中の段ボールを使って養生しておいてください。

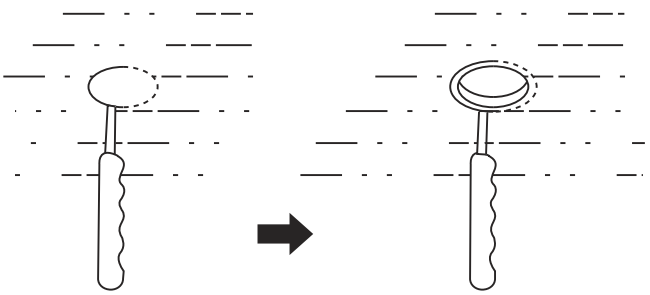


12 給気グリルの穴あけ工事

第３期工事

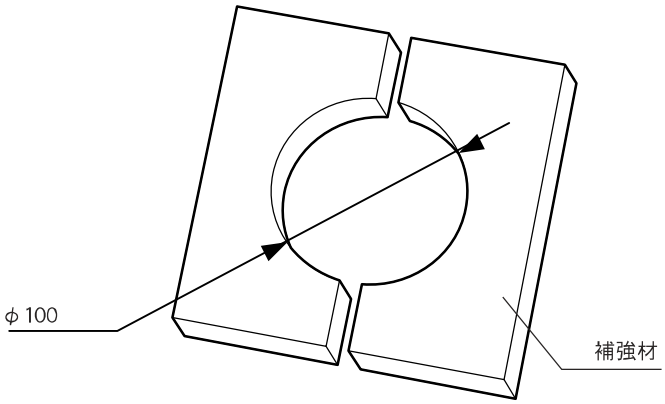
別売品（弊社仕様）を使用した場合の工事例です。
別売品（弊社仕様）以外のものを使用する場合は、その製品の説明書を参考に工事を行ってください。

給気グリル取付用下地材を確認し、その穴径（98～100mm）にあわせ開けてください。



給気グリル取付用下地材が使用できないとき

芯ずれなどにより、給気グリル取付用下地材が使用できないとき、別途補強材を入れてください（補強材を木ねじなどで止める）。



（例）

⚠注意

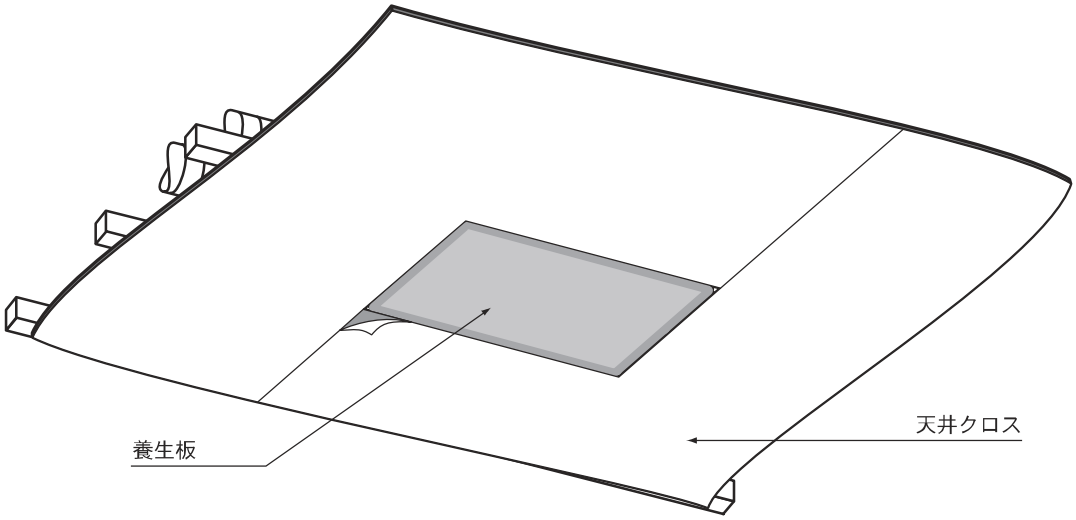
取付注意

木ねじで止める時は、止める木ねじが給気グリルよりはみ出ない位置で固定する。
補強材の固定にボンドは使用しない。

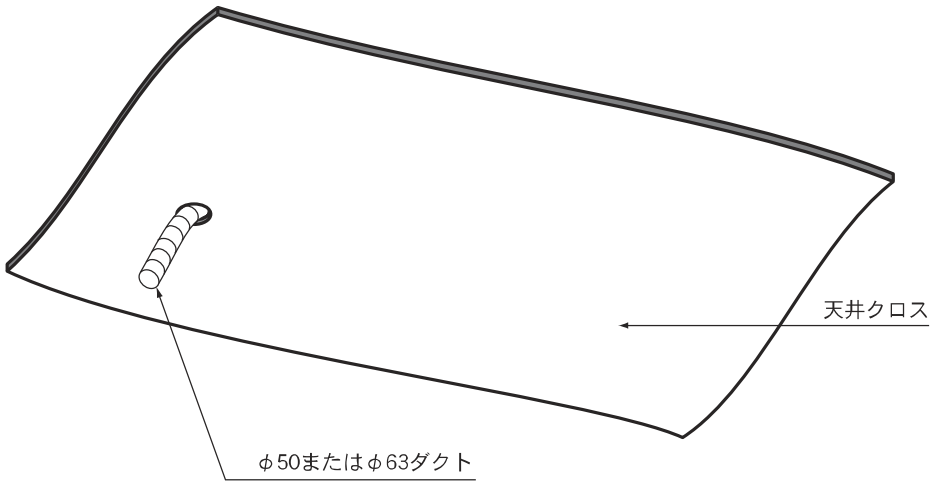
13 クロス貼り

第３期工事

①本体取付開口部を覆い隠さないように天井クロス貼りを行ってください。



②各給気グリル取付用穴位置について、給気グリル取付用穴に沿って天井クロスを切り抜き、
穴からφ50またはφ63ダクトを引き出してください。



⚠注意

取付注意

開口部の切り口は歪まないないようにする。また、本体を覆い隠して貼り、後で開口する方法は絶対にやらない。
本体破損の恐れがあります。

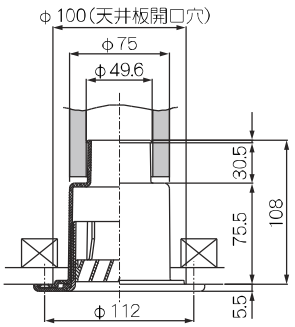
14 給気グリルの取り付け

第３期工事

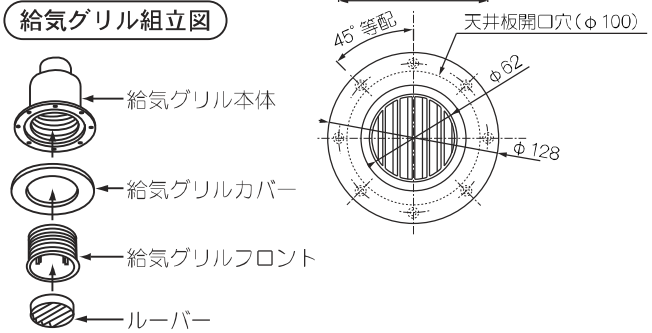
別売品（弊社仕様）を使用した場合の工事例です。
別売品（弊社仕様）以外のものを使用する場合は、その製品の説明書を参考に工事を行ってください。

ストレートグリル

給気グリル外形図

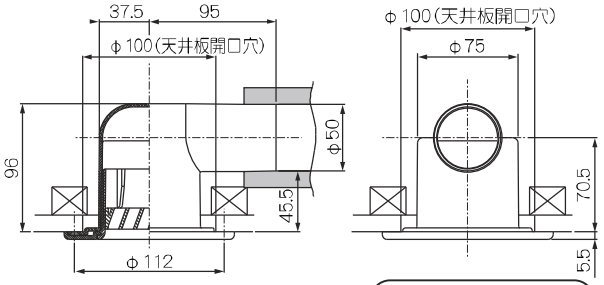


給気グリル組立図

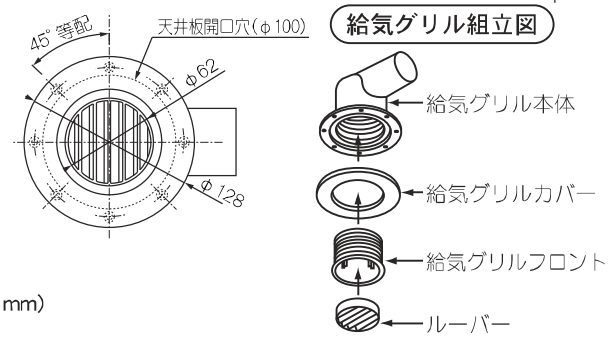


エルボグリル

給気グリル外形図

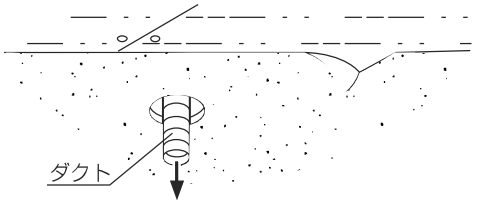


給気グリル組立図

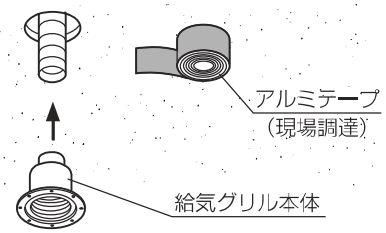


（単位：mm）

①丸型グリル取付用穴位置について、穴に沿ってクロスを切り抜き、穴からダクトを30cm以上引き出してください。

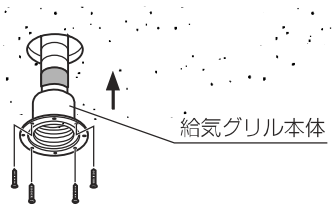


②給気グリル本体とダクトをつなぎ、アルミテープを巻いてください。

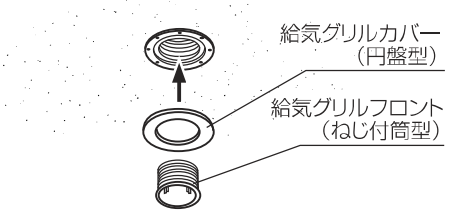


⚠注意 アルミテープは、らせん状に最低3周以上巻いてください。

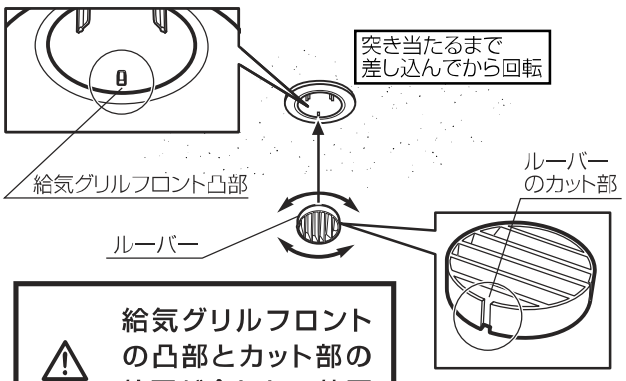
③ダクトを押し入れながら、給気グリル本体を穴にはめて、補強材のあるところにねじ4本以上で取り付けてください。（給気グリル本体には、8カ所穴があいていますが、対角線上で4カ所使用します。）



④給気グリルフロント（ねじ付筒型）に給気グリルカバー（円盤型）をはめて、本体にねじ込みながら取り付けてください。



⑤給気グリルフロント内側の凸部にルーバーのカット部を合わせ、突き当たるまで差し込んでから回転させ吹出し方向を調整してください。



⚠注意 給気グリルフロントの凸部とカット部の位置が合わない位置に吹出し方向を調整してください。

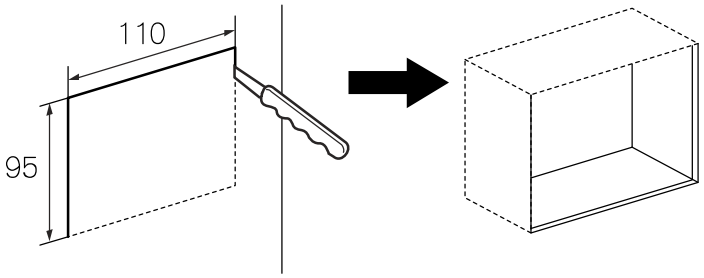
☞ P5 **4 各部材取り付け例** 参照

15 コントローラの取り付け

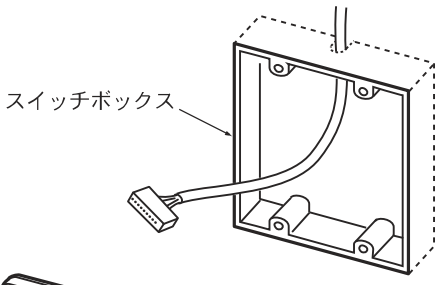
第３期工事

①スイッチボックス部の石膏ボードを「引き回しノコギリ等」で取り除きます。

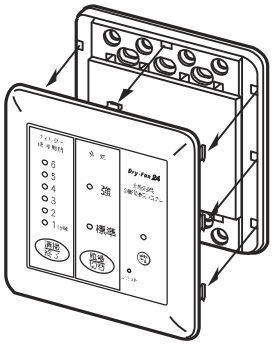
●コントローラ取付開口寸法は110×95となります。



②取付場所に事前に市販のスイッチボックス（JIS２連）を取り付けておいてください。

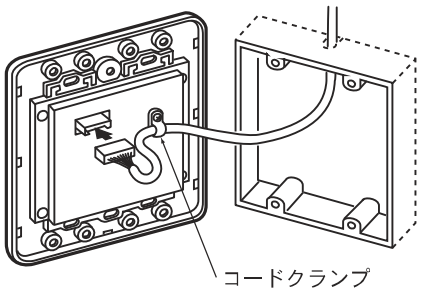


③コントローラカバーを取り外してください。

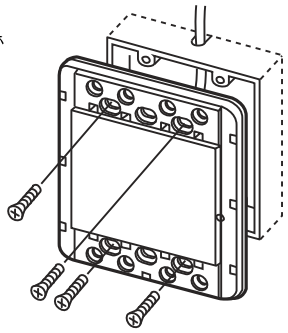


④コントローラ裏のソケット（５P）にコントローラコード先端のコネクタを確実に差し込んでください。
差し込みが不完全な場合、故障や誤動作の原因となります。

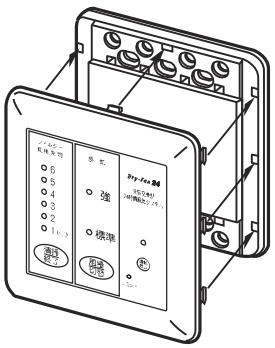
⑤コントローラコードをコードクランプで固定してください。



⑥スイッチボックスに付属している皿ねじ4本でコントローラ本体をスイッチボックスに取り付けてください。
ねじを締めすぎないよう注意してください。



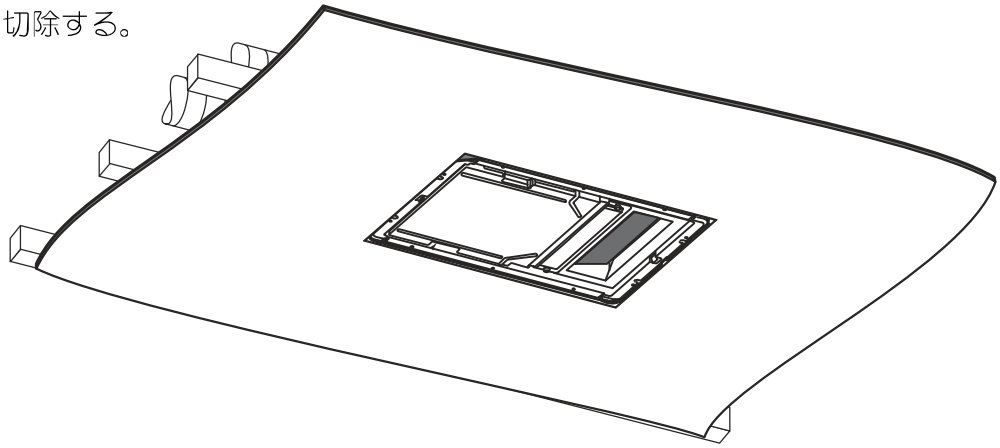
⑦コントローラカバーを元通りに取り付けてください。



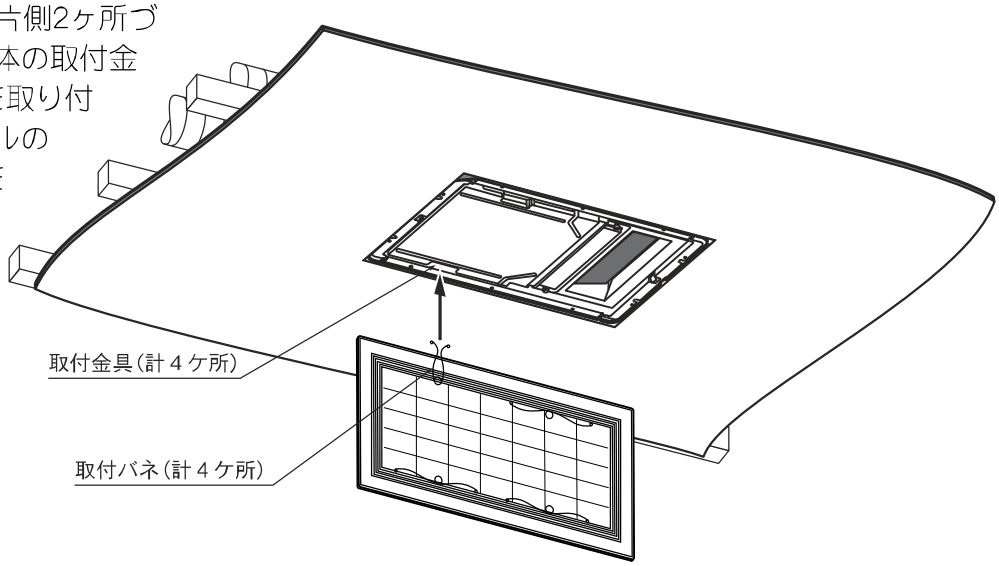
16 フロントパネルの取り付け

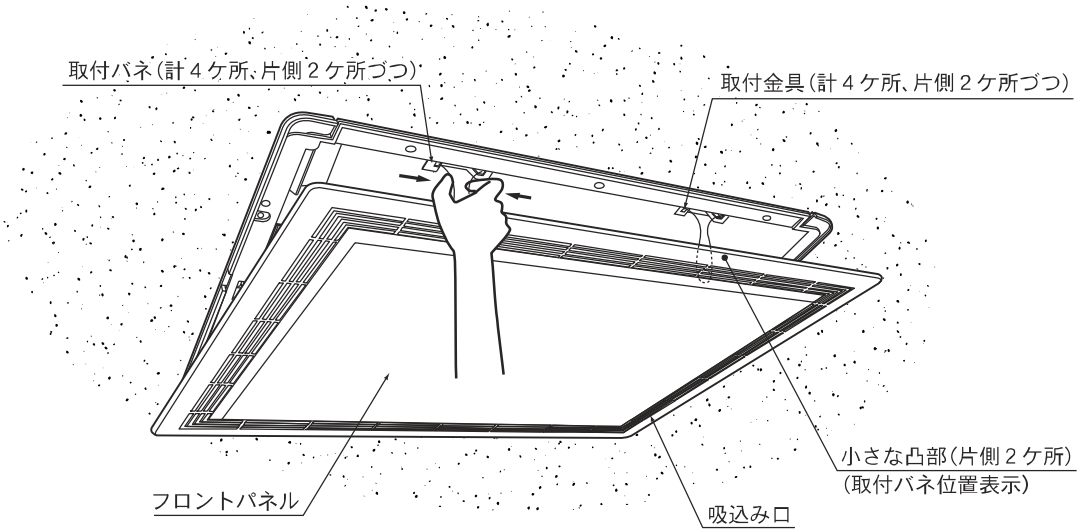
第３期工事

① 本体開口部の余分なクロスを切除する。



②本体側で、取付バネ（計4ヶ所、片側2ヶ所づつ）を手で押し締めながら、本体の取付金具に挿入し、フロントパネルを取り付けてください。（フロントパネルの表面には、天井と同じクロスを貼ることができますが、吸込み口をふさがないよう注意してください。）





③本体へ電源が供給できている場合は、電源を入れ（安全ブレーカ）、試運転を行い、各給気グリルから吹き出しがある事を確認してください。

17 点検と試運転

● 最初の項目の「安全のために必ずお守りください」が守られているか、確認してください。
● 分電盤のブレーカーを入れてください。
● くわしい使用方法は取扱説明書を参照してください。

☆動作の確認

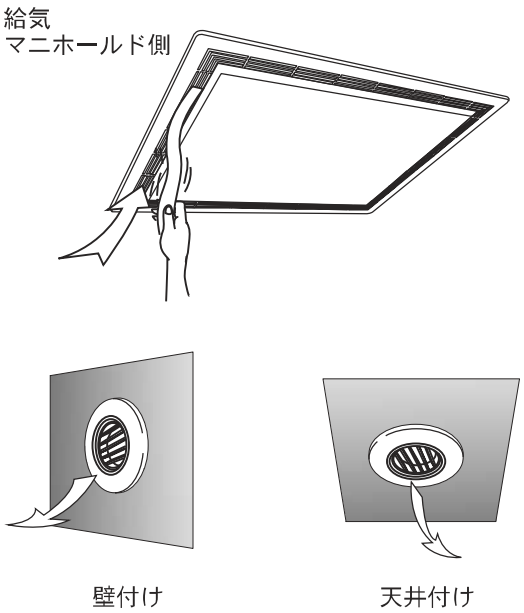
①全熱交換型全館24時間換気扇のブレーカーを入れてください。
運転ランプと風量標準ランプが点灯したことを確認してください。

②フロントパネルの、給気マニホールド側グリル部分から、風が吸い込まれることを、薄い紙などを吸い付かせて確認してください。

③各室の給気グリルの風が吹き出していることを、手をかざすなどして確認してください。

④風量切替ボタンを押してください。風量強ランプが点灯したことを確認してください。各室の給気グリルから吹き出す風が強くなったことを確認してください。

⑤フロントパネルを外してください。フロントパネルの一方の側を引き下げて、取付バネ（フロントパネルの端にある小さな凸部が取付バネの位置です。）を手で縮めながら、金具の穴から外してください（２本）。そのままゆっくり手を離すと、もう一方の側のバネが金具に引っ掛かっており、フロントパネルが開いた状態で落ちないようになっています。



☆フィルター枠・フィルターの確認

⑦フィルター枠を手で押えながら、フィルター枠固定ねじ（2ケ所）を外してください。

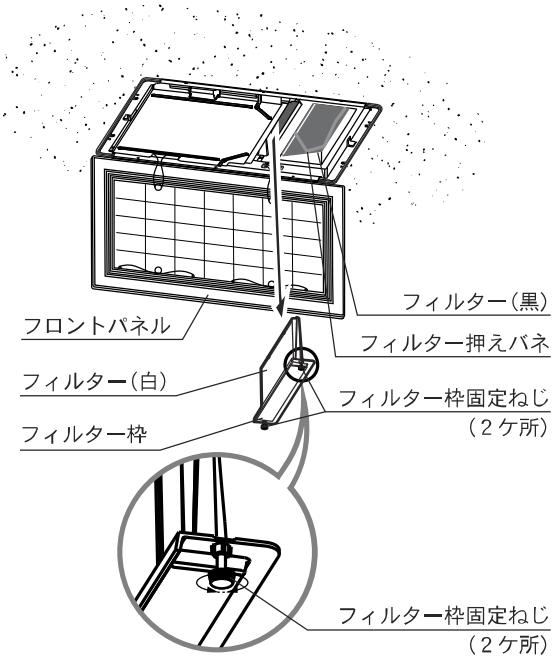
⑧フィルター枠をゆっくりと外してください。
引っ掛かりなく外せることを確認してください。

⑨フィルター（白）がフィルター枠にしっかりと取り付けられているか確認してください。

⑩フィルター枠をゆっくり元の位置に押し込み、引っ掛かりなく押し込めることを確認してください。

⑪フィルター枠固定ねじ（2ケ所）を締め、フィルター枠が確実に固定されるか、確認してください。

⑫フィルター（黒）がフィルター押えバネでしっかりと取り付けられているか確認してください。



⑬ フロントパネルを元通りに取り付けてください。

☞ P23 16 フロントパネルの取り付け 参照

☆停止の確認

⑭コントローラの運転/停止ボタンを３秒以上押し続けてください。
すべてのランプが消灯したことを確認してください。運転が停止し各部屋の給気グリルから風が吹き出さなくなることを確認してください。

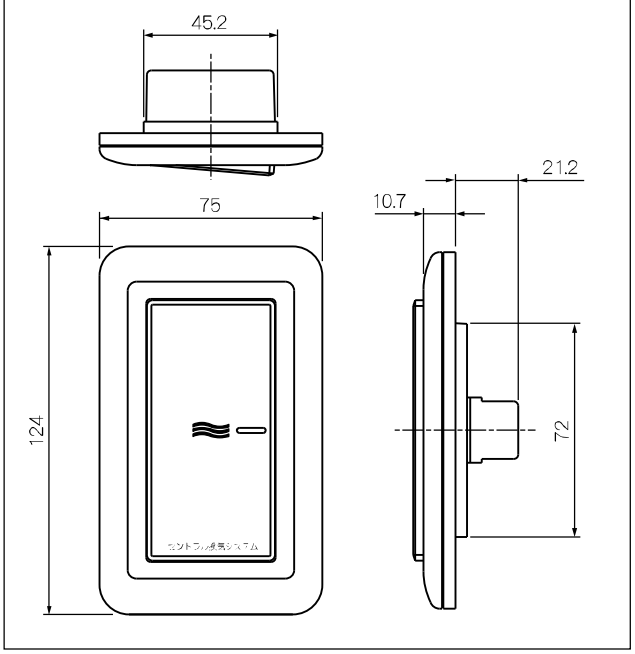
⑮ ブレーカーを切り点検と試運転を終了してください。

18-1 別売り部材・現場調達部材 [単位：mm]

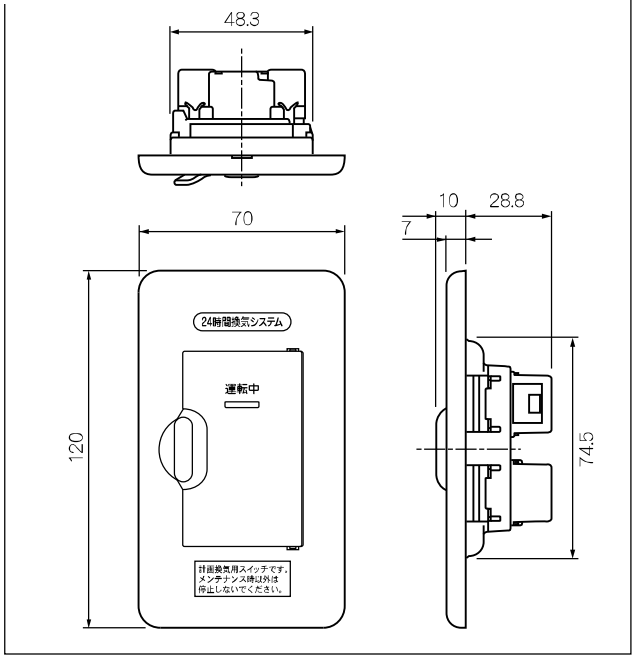
■別売り部材

●コントローラ

ES-CRM-2



ES-CRM-11



●ダクト継手

φ50、φ63、φ100ダクト継手
φ50、φ63Y管

☞ 仕様の詳細については弊社まで
お問い合わせください。

●ダクト

非断熱ダクト　（φ50）
断熱ダクト　（φ50、φ100）
不燃・断熱ダクト　（φ50、φ63、φ100）

☞ 仕様の詳細については弊社まで
お問い合わせください。

●給気グリル

ストレートグリル（白・茶）
エルボグリル　（白・茶）
※付属品
　給気グリル用施工説明書
　給気グリル取り付け用ねじ

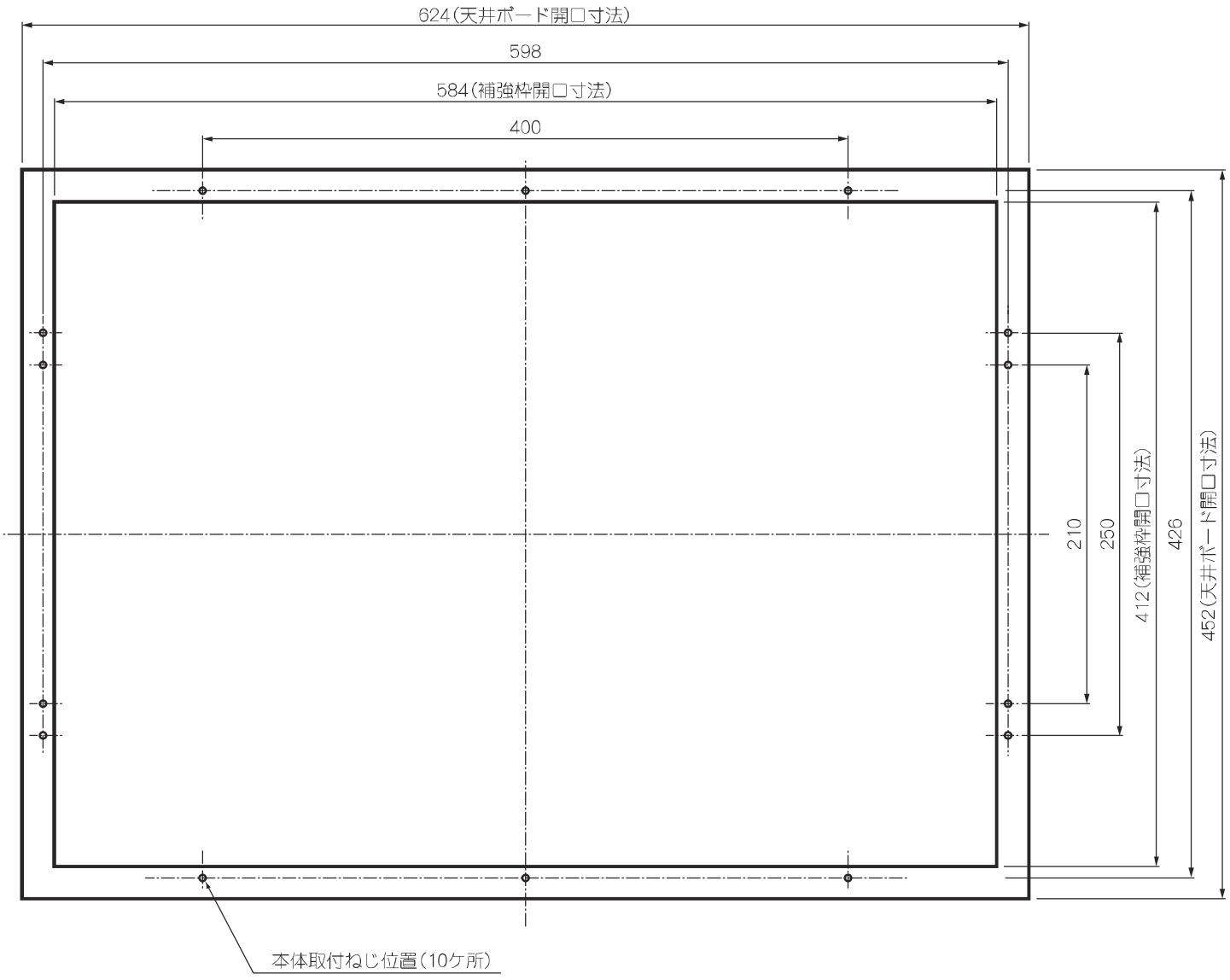
☞ P21 14 給気グリルの取り付け 参照

18-2 別売り部材・現場調達部材（続き）[単位:mm]

■現場調達部材(数量は、本体１台につき)

- ●２心VVFケーブル（φ1.6～φ2.0mm)
- ●３心VVFケーブル（ES-CRM-IIを使用する場合）
- ●アルミテープ
- ●ベントキャップ（φ100用）……２個
- ●VP管（φ50）※φ63ダクトを使用する場合

本体取付寸法図(縮尺1/4)



●取扱説明書の裏表紙の保証書に、販売店名、住所、電話番号、取付年月日を記入の上、この施工説明書と共にお客様に必ず保管していただくように依頼してください。

修理についてのご依頼は▶マックスサービスファクトリー㈱へ

0120-011-408

MAX マックスサービスファクトリー株式会社

〒333-0843 埼玉県川口市前上町18-20

TEL 048-266-8373 FAX 048-269-6077

製品についてのお問い合せは▶マックス㈱へ

0120-228-428

MAX マックス株式会社

〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6-6

TEL 03-3669-8112 FAX 03-3669-8135

1版 2008年8月

初版 2001年2月